

TDSQL-C for MySQL

Serverlessサービス

製品ドキュメント



著作権声明

©2013–2026 Tencent Cloud. 著作権を所有しています。

このドキュメントは、Tencent Cloudが著作権を専有しています。Tencent Cloudの事前の書面による許可なしに、いかなる主体であれ、いかなる形式であれ、このドキュメントの内容の全部または一部を複製、修正、盗作、配布することはできません。

商標に関する声明



およびその他のTencent Cloudサービスに関連する商標は、すべてTencentグループ下の関連会社主体により所有しています。また、本ドキュメントに記載されている第三者主体の商標は、法に基づき権利者により所有しています。

サービス声明

本ドキュメントは、お客様にTencent Cloudの全部または一部の製品・サービスの概要をご紹介することを目的としておりますが、一部の製品・サービス内容は変更される可能性があります。お客様がご購入されるTencent Cloud製品・サービスの種類やサービス基準などは、お客様とTencent Cloudとの間の締結された商業契約に基づきます。別段の合意がない限り、Tencent Cloudは本ドキュメントの内容に関して、明示または黙示の一切保証もしません。

カタログ:

Serverlessサービス

Serverless入門

概要

サービス機能

エラスティックなジッタ防止機能

サービス課金の説明

サービス料金未払いの説明

サーバーレス版クラスタの作成と管理

Serverless版クラスタの作成

読み取り専用インスタンスの作成と管理の実施

自動または手動による起動と停止の設定

伸縮性スケーリング管理ツール

ルールの柔軟性設定

Serverlessリソースパック

リソースパックの概要

リソースパックの購入

コンピューティングリソースパック

ストレージリソースパック

リソースパックの関連付けまたは関連付け解除

消費優先順位の調整

リソースパックの使用量の詳細を表示する

リソースパックアラームポリシー

リソースパック名の変更

リソースパックの返金説明

マルチAZデプロイ

マルチAZデプロイの概要

マルチAZデプロイの関連操作

設定を変更する

サービスの計算能力設定

設定の調整

よくあるご質問

Serverless よくある質問

リソースパックのよくある質問

Serverlessコスト見積ツール

Serverlessサービス

Serverless入門

概要

最終更新日: 2025-12-30 16:37:30

Serverlessサービスは、Tencent Cloudが独自開発した次世代クラウドネイティブリレーショナルデータベース「TDSQL-C for MySQL」のサーバーレスアーキテクチャ版であり、完全なServerlessアーキテクチャを採用したクラウドネイティブデータベースです。Serverlessサービスは実際のコンピューティングリソースとストレージリソースの使用量に基づいた従量課金制を採用しており、未使用時は課金されません。これによりTencent Cloudのクラウドネイティブ技術を広くユーザーに提供します。

背景

現代企業のITシステムにおいて、データベースは極めて重要な役割を果たしています。データベース作成時には、CPU、メモリ、ストレージ、および各種パラメータを含むデータベースクラスタリソースを慎重に構成することが不可欠です。これにより、ピーク時とオフピーク時の両方でビジネスを円滑に展開できます。しかし、従来のリソース構成方法には課題があり、ビジネスがオフピーク段階にあるとクラスタリソースが遊休状態となり、一方でビジネスピーク時にはリソース不足が発生する傾向があります。

Serverlessサービスは効果的にこの問題を解決できます。それにより、データベースクラスタのリソースがビジネス負荷状況に基づいて動的にASを行い、これによって運用保守担当者は複雑なリソース評価と管理作業から解放され、彼らの作業量が大幅に削減されます。

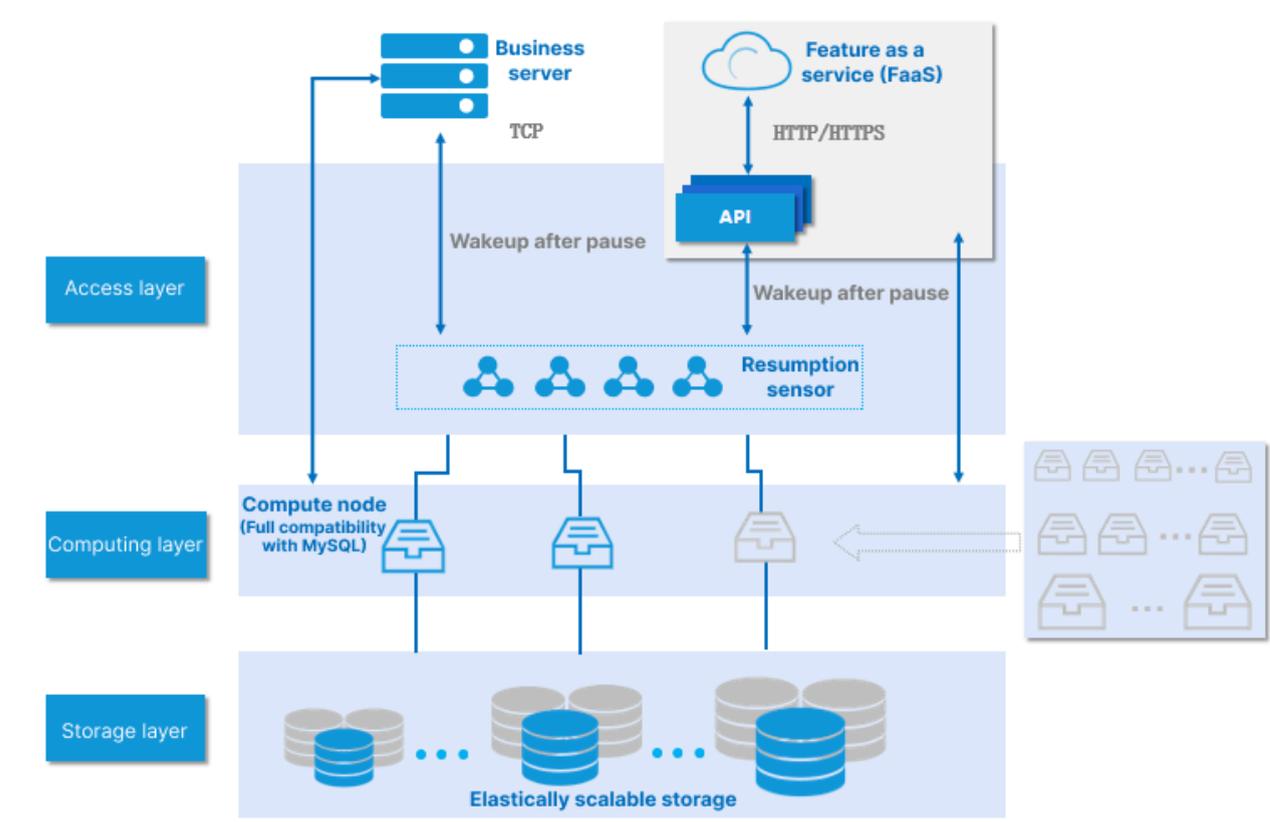
TDSQL-C for MySQLはインスタンス形態上、**プリセットリソースクラスタ**と**Serverlessクラスタ**に分類されます。ビジネス変動が大きいシナリオでは、Serverlessクラスタは低負荷時やトラフィック急増期により柔軟に対応でき、ビジネスコストの効果的な削減も実現します。

- **プリセットリソースクラスタ**: 固定スペックのため、設定を適時調整しないと、ビジネス低潮期にリソースを無駄にしやすく、ピーク時にはリソース不足が発生します。
- **Serverlessクラスタ**: リソースのスケーリング範囲を制御可能で、ユーザーのCPUやメモリなどのワークロード負荷状況を継続的に監視し、ルールに基づいて自動スケーリングポリシーをトリガーします。自動起動停止機能と弾性アンチジッタ機能を備えているため、Serverlessクラスタを使用することでリソース利用率を向上させ、コスト削減を実現できます。

📌 説明:

現在、プリセットリソースクラスタではServerless読み取り専用インスタンスのマウントがサポートされています。ビジネス状況に応じてクラスタ内のインスタンス形態を適切にデプロイできます。詳細については、[プリセットリソースクラスタでのServerlessの有効化または無効化](#)をご参照ください。

Serverlessサービスアーキテクチャ



- オンデマンドで起動でき、不要な場合はオフにできます。
- 自動拡張/収縮。
- スケーリングはアプリケーションに影響を与えません。

Serverlessサービスのメリット

- 自動運転 (Autopilot) : データベースはビジネス負荷に基づいて自動的に起動・停止し、シームレスなスケーリングを実現します。スケーリングプロセス中に接続が切断されることはありません。
- 従量課金 (Utility Pricing) : 実際に使用したコンピューティングリソースとストレージ量に基づいて課金されます。コンピューティングはCCU数で課金され、ストレージは使用量 (GB) で課金されます。課金システムは秒単位で課金し、時間単位で決済します。

適用シーン

- 開発、テスト環境などの低頻度データベース使用シナリオ。
- IoT (Internet of Things) 、エッジコンピューティングなどの不確定な負荷が発生するシナリオ。
- ミニアプクラウド開発、中小企業向けウェブサイト構築などのSaaSアプリケーションシナリオ。
- 学校実験や教育環境などのアプリケーションシナリオ。
- フルマネージドまたは完全な運用保守不要を希望するユーザー。
- 不確実性、変動性、断続性のあるビジネスシナリオ。

関連ドキュメント

- サービス特性
- エラスティックなジッタ防止機能
- サービス課金の説明
- サービス料金未払いの説明

サービス機能

最終更新日: 2025-12-30 16:37:30

TDSQL-C for MySQLは、企業の特定業務シナリオにおけるデータベースサービス要件を満たすためにServerlessサービスを提供し、企業のコスト削減と効率向上を支援します。本ドキュメントではServerlessサービスの主な特長を紹介します。

機能項目	説明
リソースのスケール範囲 (CCU)	調整可能なCCUのエラスティックスケール範囲。Serverlessクラスタはこの範囲内で実際の業務負荷に応じてCCUを自動的に増減します。
エラスティックポリシー	ServerlessクラスタはユーザーのCPU、メモリなどのワークロード負荷状況を継続的に監視し、一定のルールに基づいて自動スケールリングポリシーをトリガーします。
自動起動・停止	Serverlessサービスはインスタンスの自動一時停止時間をカスタマイズ可能です。接続がない場合、インスタンスは自動的に一時停止します。タスク接続が発生した場合、インスタンスは秒単位で中断なく自動的に再開します。

リソースのスケール範囲 (CCU)

CCU (TDSQL-C Compute Unit) はServerlessのコンピューティング課金単位であり、1つのCCUはおおよそ1CPUと2GBメモリのコンピューティングリソースに相当します。各課金サイクルにおけるCCU使用量は、データベースが使用するCPUコア数とメモリサイズの $1/2$ のうち、最大値を採用します。

Serverlessサービスにはスケール範囲の設定が必要です。詳細なスケール範囲については、[コンピューティング設定](#)を参照してください。

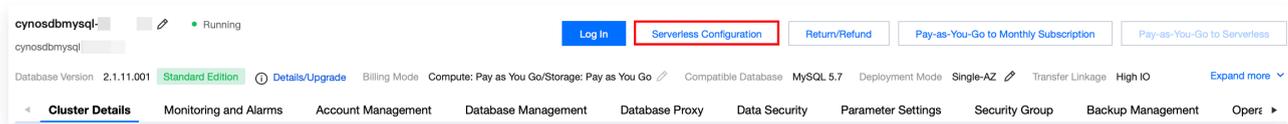
Serverlessサービスは最小キャパシティ設定を0.25 CCUまでサポートします。初めてスケール範囲を設定する際は、最小キャパシティを1 CCUに、最大キャパシティを高い値に設定することを推奨します。小さいキャパシティ設定により、クラスタが完全にアイドル状態の時に最大限の縮小が可能となり、追加費用の発生を回避できます。大きいキャパシティ設定により、クラスタの負荷が高まった際に最大限の拡張が行われ、安定的に業務ピークを乗り切ることができます。

📌 説明

- 業務シナリオで非常に高いキャパシティまで迅速に拡張する必要がある場合、最小キャパシティをやや大きめの値に設定することをご検討ください。
- リソースのスケール範囲を変更する必要がある場合、コンソールにログインし、実際のビューモードに応じて変更できます。

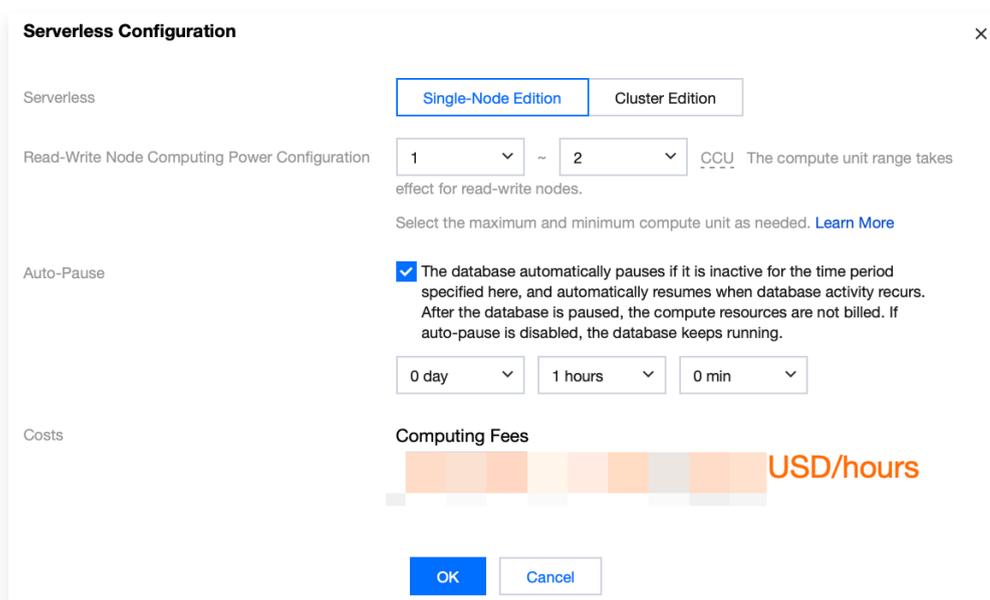
タブビュー

対象のクラスタ管理ページで、右上の**Serverless設定**をクリックします。ポップアップウィンドウでコンピューティング設定の変更を行います。調整後はすぐに有効になり、業務に影響を与えません。



リストビュー

対象のクラスタ管理ページ>インスタンスリストの操作列で**その他>設定調整**をクリックします。調整後はすぐに有効になり、業務に影響を与えません。



エラスティックポリシー

Serverlessサービスのスケーリングポリシーは監視コンピューティングレイヤーで実装されます。ビジネス負荷状況を監視し、システムがコンピューティングリソースを自動的にスケーリングし、その時点で消費されたリソースに対して課金します。データベースリクエストがない場合、監視サービスはコンピューティングリソースの回収をトリガーし、接続層に通知します。ユーザーが再度アクセスすると、接続層はクラスタを再開し、アクセスを再提供します。

Serverlessサービスのスケーリングポリシーは、最初にユーザーが購入時に選択したキャパシティ範囲に基づき、CPUおよびメモリリソースを最大仕様に制限します。これにより、CPUやメモリの拡張に伴う時間的影響や使用制限を大幅に低減します。クラスタが自動スケーリングの負荷閾値に達すると、バッファプールは監視データに基づき**秒単位**で事前調整を行います。この方式により、ユーザーはデータベース利用時にCPU拡張を意識せず、接続急増によるインスタンスのOOM発生も防止できます。

! 説明:

- Serverlessを使用する場合、その柔軟なスケーリング能力により、クロスマシンスケーリングが発生する可能性があります。クロスマシンスケーリングがビジネスに与える影響を回避するため、Serverlessクラスタを使用する際には **データベースプロキシ** を追加することを推奨します。これにより、クロスマシン接続断による接続切断問題を防止できます。同時に、ビジネスアプリケーションに再接続メカニズムを実装し、クロスマシン影響を最小限に抑えることをお勧めします。
- リードオンリーノードは現在、単一ノードの垂直スケーリングのみサポートしており、リードオンリーノード数の水平スケーリング能力はまだサポートしていません。

自動起動・停止

業務ニーズに応じて、自動一時停止設定をオンまたはオフにすることができます。この設定は **コンソール** で変更可能です。

! 注意:

Serverlessサービスの自動一時停止の判断条件はユーザー接続の有無です。ビジネスシナリオで event_scheduler を使用したSQLの定期トリガー操作が必要な場合、自動一時停止の有効化は推奨しません。

自動一時停止設定の有効化または無効化が必要な場合、実際のビューモードに応じて対応する操作を行ってください。

タブビュー

対象のクラスタ管理ページで、右上の**Serverless設定**をクリックし、ポップアップウィンドウで自動一時停止のチェックを入れるか外します。

Auto-Pause The database automatically pauses if it is inactive for the time period specified here, and automatically resumes when database activity recurs. After the database is paused, the compute resources are not billed. If auto-pause is disabled, the database keeps running.

0 day

1 hours

0 min

リストビュー

対象クラスタ管理ページの**インスタンスリスト**で、**操作列のその他>設定調整**をクリックし、ポップアップウィンドウで自動一時停止のチェックを入れるか外します。

- 有効状態では、自動一時停止時間を設定する必要があり、デフォルトは1時間です。データベースがこの時間内に接続がなく、CPU使用も発生しない場合、自動的に一時停止します。一時停止後はコンピューティング課金

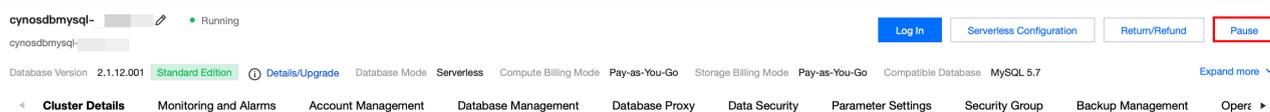
が発生せず、ストレージは引き続き実際の使用量に基づいて課金されます。

- 無効状態では、データベースは継続的に稼働し続け、接続やCPU使用がない場合、ユーザーが設定した最小CCU演算能力に基づいて課金されます。これは、ビジネスでハートビート接続を必要とするアプリケーションシナリオに適しています。

手動一時停止

指定データベースに対し、コンソールで実際のビューモードに基づいて手動一時停止操作を実行することも可能です。

タブビュー



リストビュー

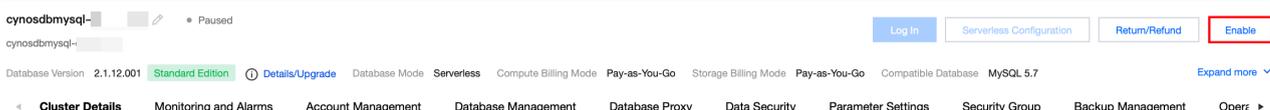
The screenshot shows a list view of database clusters. The table has columns for Cluster ID/Name, Cluster status, Compatible Database, AZ, Read/Write Address, Read-Only Address, Database Proxy Address, Billing Mode, Project, Expiration Time, and Operation. The 'Operation' column for the first cluster has a dropdown menu open, and the 'Pause' option is highlighted with a red rectangular box.

Cluster ID/Name	Cluster ...	Compatible Dat...	AZ	Read/Write Address	Read-Only Address	Database Proxy Address	Billing Mode	Project	Expiration Time	Operation
cynosdbmysql- cynosdbmysql-	Running	MySQL 5.7	Tokyo Z...	(Private) 17.3306 (Public) Disabled	Enabled	(Private) :3306	Compute-Pay as You Go Storage-Pay as You Go	Default Project	--	Log In Manage More Return/Refund Security Group Edit Tag Upgrade Version Pause
cynosdbmysql- cynosdbmysql-	Running	MySQL 5.7	Tokyo Z...	(Private) i:3306 (Public) Disabled	--	--	Compute-Pay as You Go Storage-Pay as You Go	Default Project	--	
cynosdbmysql- cynosdbmysql-	Running	MySQL 5.7	Tokyo Z...	(Private) 9.3306 (Public) Disabled	Enabled	--	Compute-Pay as You Go Storage-Pay as You Go	Default Project	--	

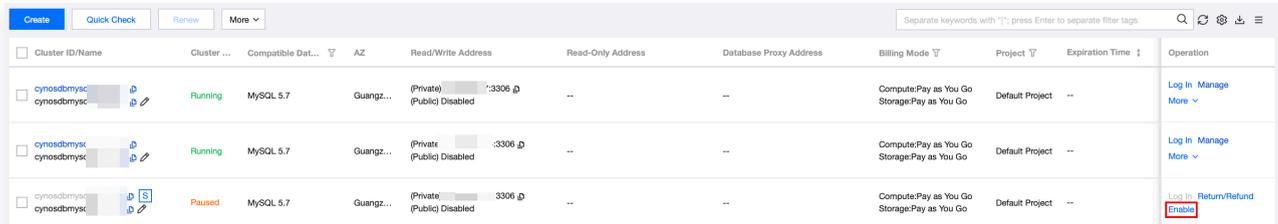
一時停止後の手動起動

一時停止状態のデータベースではコンソール機能が利用できません。操作が必要な場合は、データベースが自動起動した後に操作するか、実際のビューモードに応じて **コンソール** で手動的にServerlessデータベースを起動してください。

タブビュー



リストビュー



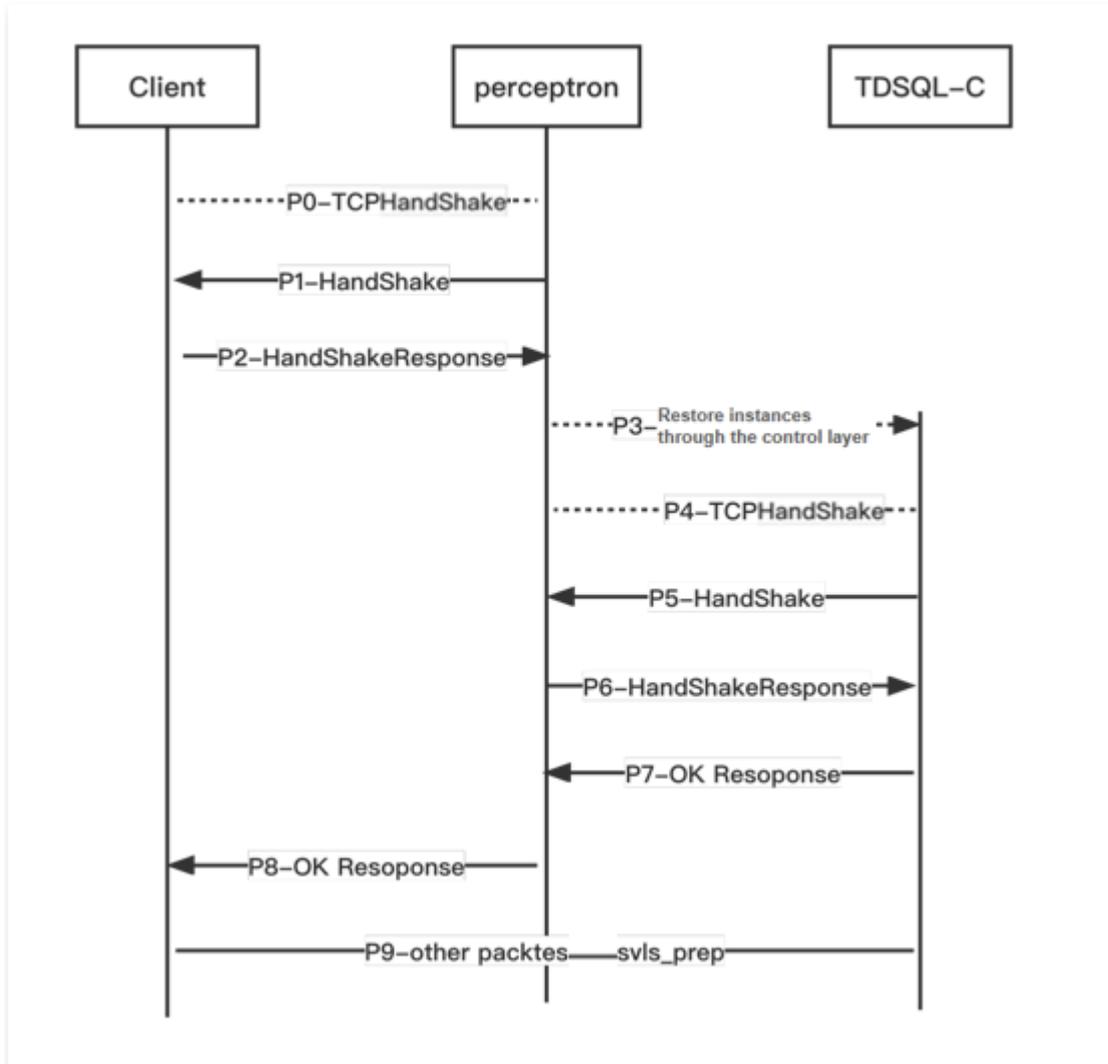
Cluster ID/Name	Cluster ...	Compatible Dat...	AZ	Read/Write Address	Read-Only Address	Database Proxy Address	Billing Mode	Project	Expiration Time	Operation
<input type="checkbox"/> cynosdbmysql- cynosdbmysql	Running	MySQL 5.7	Guangz...	(Private) :3306 (Public) Disabled	--	--	Compute:Pay as You Go Storage:Pay as You Go	Default Project	--	Log In Manage More
<input type="checkbox"/> cynosdbmysql- cynosdbmysql	Running	MySQL 5.7	Guangz...	(Private) :3306 (Public) Disabled	--	--	Compute:Pay as You Go Storage:Pay as You Go	Default Project	--	Log In Manage More
<input type="checkbox"/> cynosdbmysql- cynosdbmysql	Paused	MySQL 5.7	Guangz...	(Private) 3306 (Public) Disabled	--	--	Compute:Pay as You Go Storage:Pay as You Go	Default Project	--	Log In Return/Refund Enable

継続的な接続とリクエスト転送能力

接続アクセスがある場合、システムは秒単位で一時停止状態のデータベースを自動的に起動します。ユーザーが再接続メカニズムを設定する必要はありません。

TDSQL-C for MySQLのアクセス層には、リクエスト転送を実現するための回復感知モジュール（略称：パーセプトロン）が追加されています。パーセプトロンはクライアントとのハンドシェイク後、クライアントからクラスタへの接続を切断しません。クラスタを回復した後、TDSQL-C for MySQLとハンドシェイクを行い、以降のレイヤ4パケットを転送します。

全体のプロセス設計では、2つのチャレンジ乱数を使用した認証を採用し、中継モジュールであるパーセプトロンがユーザー名とパスワードを保存せずともユーザー認証を完了できるようにしています。これによりユーザーパスワードの安全性が保証され、パスワード保存の不一致問題も発生しません。



TDSQL-C for MySQLのインスタンスが一時停止状態にある場合、接続が開始されると、MySQLクライアントはまずパーセプトロン (perceptron) とTCPハンドシェイク (P0) を行います。TCPハンドシェイク完了後、パーセプトロンはクライアントに「ランダム値A」を送信してチャレンジ (P1) を発行します。MySQLクライアントは自身のアカウントパスワードと「ランダム値A」を使用して計算を行い、「ログイン解答A」 (P2) を返答します。パーセプトロンはユーザーのアカウントパスワードを保存していないため、「ログイン解答A」の正否を検証できませんが、クライアントがMySQLクライアントか他のタイプのクライアントかを判別可能です (パーセプトロンは機械学習分野における分類器であり、異なるタイプのクライアントを区別できることが名称の由来の一つです)。「ログイン解答A」の検証はTDSQL-C for MySQLのコンピューティング層 (以下TDSQL-C) が担当し、パーセプトロンが管理制御を通じてTDSQL-Cを起動 (P3) した後、次のログイン検証プロセスに進みます。パーセプトロンとのTCPハンドシェイク後 (P4)、TDSQL-Cにとってパーセプトロンも通常のMySQLクライアントであるため、「ランダム値B」のチャレンジ (P5) をパーセプトロンに送信します。パーセプトロンの応答は特殊なMySQLパケット (P6) であり、まず「ランダム値B」とパーセプトロン自身の認証メカニズムを使用して「ログイン解答B」を計算しパケットに格納します。さらに「ランダム値A」と「ログイン解答A」もこのパケットに付加的に含めます。TDSQL-Cはこの特殊な解答パケットを受信すると二段階の検証を行います: 第一段階で「ランダム値B」と「ログイン解答B」の正当性およびパーセプトロンの身元を確認し、通過後第二段階で「ランダム値A」と「ログイン解答A」の正当性を検証します。両方の検証を通過するとユーザーとしてログインし、

パーセプトロンにログイン成功 (P7) を通知します。これを受けてパーセプトロンはユーザーにログイン成功 (P8) を返答します。

クラスタが一時停止状態の場合、パーセプトロンのルーティングのみを保持します。クラスタが回復すると、システムはパーセプトロンのルーティングとTDSQL-Cのルーティングを同時に保持し、パーセプトロンのルーティング重みを0に設定します。これにより、新規接続はTDSQL-Cに直接接続されると同時に、パーセプトロンとの確立済み接続も引き続き通信可能となります。

エラスティックなジッタ防止機能

最終更新日: 2025-12-30 16:37:30

TDSQL-C for MySQLのサーバーレスサービスは弾力性ジッタ防止機能を備えており、様々な作業負荷や性能要件に柔軟に対応できます。本ドキュメントでは、TDSQL-C for MySQLのサーバーレス形態クラスタが持つ弾力性ジッタ防止機能についてご紹介します。

背景

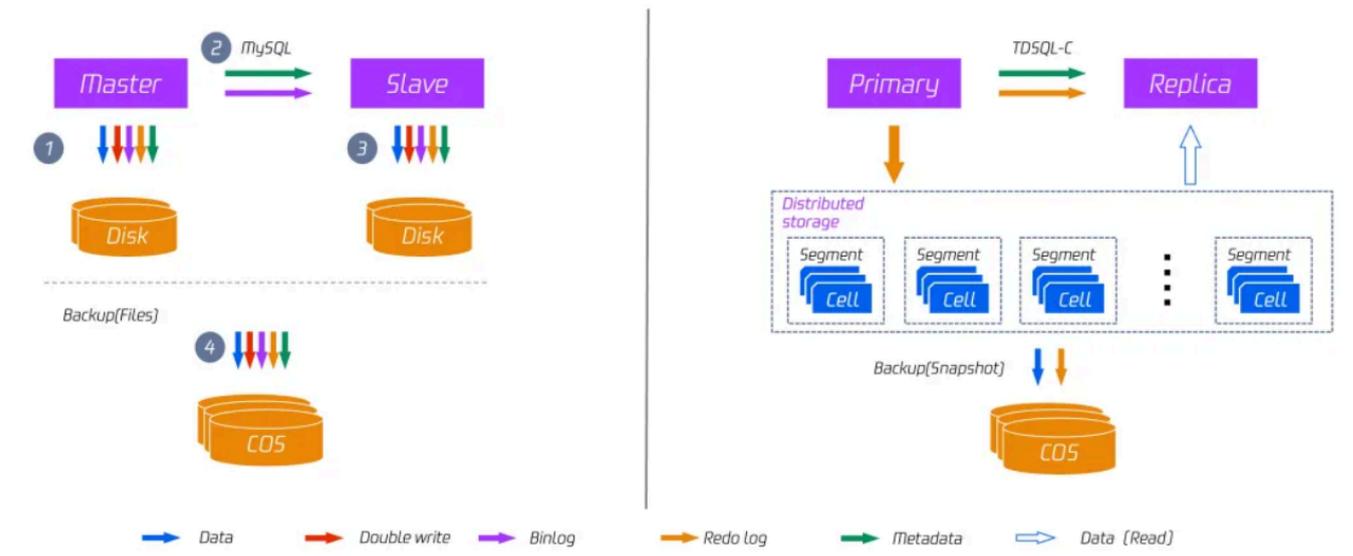
TDSQL-C for MySQLのInnoDBストレージエンジンにおいて、Buffer Poolはデータとインデックスをキャッシュするための重要なメモリ領域です。データをクエリする際、まずBuffer Poolで検索します。データがBuffer Poolにある場合（キャッシュヒット）、InnoDBは即座に結果を返すことができ、ディスクI/Oのオーバーヘッドを回避します。したがって、データベースパフォーマンス向上のため、Buffer Poolサイズの適切な設定が特に重要です。Serverlessアーキテクチャは購入したインスタンス仕様を分離し、ユーザーデータベースの実際の負荷に基づいて自動起動/停止と自動スケーリングを実現し、コンピューティングリソースを極限まで弾力化します。コンピューティングリソースは主にCCU（CPU + メモリ）で構成され、CPUはcgroupやdocker技術で制限可能です。メモリはデータベースプロセスに割り当てられ、大部分がユーザーデータをキャッシュするBuffer Poolモジュールに使用されます。Buffer Poolメモリの割当て・解放プロセスには、ユーザーデータの分散・移行、カーネル内グローバルリソースの排他制御などが関わります。Buffer Poolサイズを適切に設定することで、TDSQL-C for MySQL Serverlessサービスはより安定した弾力的なサービス能力を提供できます。

MySQL公式ではBuffer Poolサイズの動的設定をサポートしており、パラメータinnodb_buffer_pool_sizeを直接調整することで実現します。タスクはバックグラウンドで完了しますが、タスク完了前に再度パラメータを変更した場合、変更は無視されます。拡張ロジックは比較的単純ですが、縮小ロジックはより複雑で、ボトルネックが発生しやすい箇所となります。例えば、I/Oボトルネック、free/lru listミューテックスのボトルネック、グローバルロックのボトルネックなどです。これにより、TDSQL-C for MySQL Serverlessサービスはカーネルレベルで一連の最適化を実施し、データベースがより安定した弾力性を発揮できるようにしています。

ボトルネック分析および最適化ソリューション

I/Oボトルネック

カーネルチームは公式MySQL 8.0のテスト過程において、縮小運用の主要なボトルネックがlruリストのフラッシュにあることを確認しました。ほとんどのシナリオでは、最初のフリーリストスキャンで回収要件を満たせず、回収が必要なブロック数に基づいてスキャンデプスを決定するため、大きな値になる可能性があるためです。buf_flush_do_batchはダーティページのフラッシュ（ページの永続化）を必要とし、この過程でlruミューテックスの頻繁な取得・解放が発生し、ユーザースレッドとの競合によりジッターが生じます。特にページの永続化はI/O操作を伴うため、主要なボトルネックとなります。この問題はTDSQL-C for MySQLのアーキテクチャでは完全に回避可能です。分散ストレージ上のページはすべて、ストレージ層でredo logを適用することで非同期に生成されるため、コンピュートノードはフラッシュ不要であり、淘汰が必要なページは直接破棄できるからです。製品アーキテクチャは下図の通りです。



free/lru listミューテックスのボトルネック

縮小運用の主要なプロセスでは、各グループごとにフリーリストとlruリストを走査します。走査中は対応するミューテックスを保持するため、この間は読み取り操作や書き込み操作を行うユーザーレッドがアクセスできず、free/lruリストミューテックスの取得が必要になる場合があります。Buffer Pool内のすべてのブロックはこれら2つのリンクリストで管理されているため、走査プロセスは $O(N)$ （ N はブロック数を示す）の時間計算量を持ちます。この値は非常に大きくなる可能性があり、ミューテックスを長時間保持し続けることでユーザー操作にジッターが発生します。

最適化ソリューション

最適化戦略は、回収対象となるchunk内のblockをアドレス順にスキャンすることです。これによりスキャンするblock数は縮小サイズに依存し、Buffer Pool全体のサイズに依存しません。さらにロック範囲をlruリンクリスト全体から単一blockに縮小します。これによりロック保持範囲と保持時間が削減されます。

グローバルロックボトルネック

拡張操作と縮小操作のいずれにおいても、Buffer Poolのグローバルロックを取得する必要があるロジック段階が存在します。この期間中、Buffer Poolはユーザーに対してほぼ使用不可状態となります。このステップの実行時間が長すぎる場合、ユーザーが一時的な性能低下（「ジッター」）を感知する原因にもなります。分析の結果、このプロセスには主に3つの時間のかかる主要な段階があることが判明しました：

- チャンクメモリを回収し、ブロックミューテックスを解放します。
- チャンクメモリを割り当て、ブロックを初期化します。
- Resize Hash。

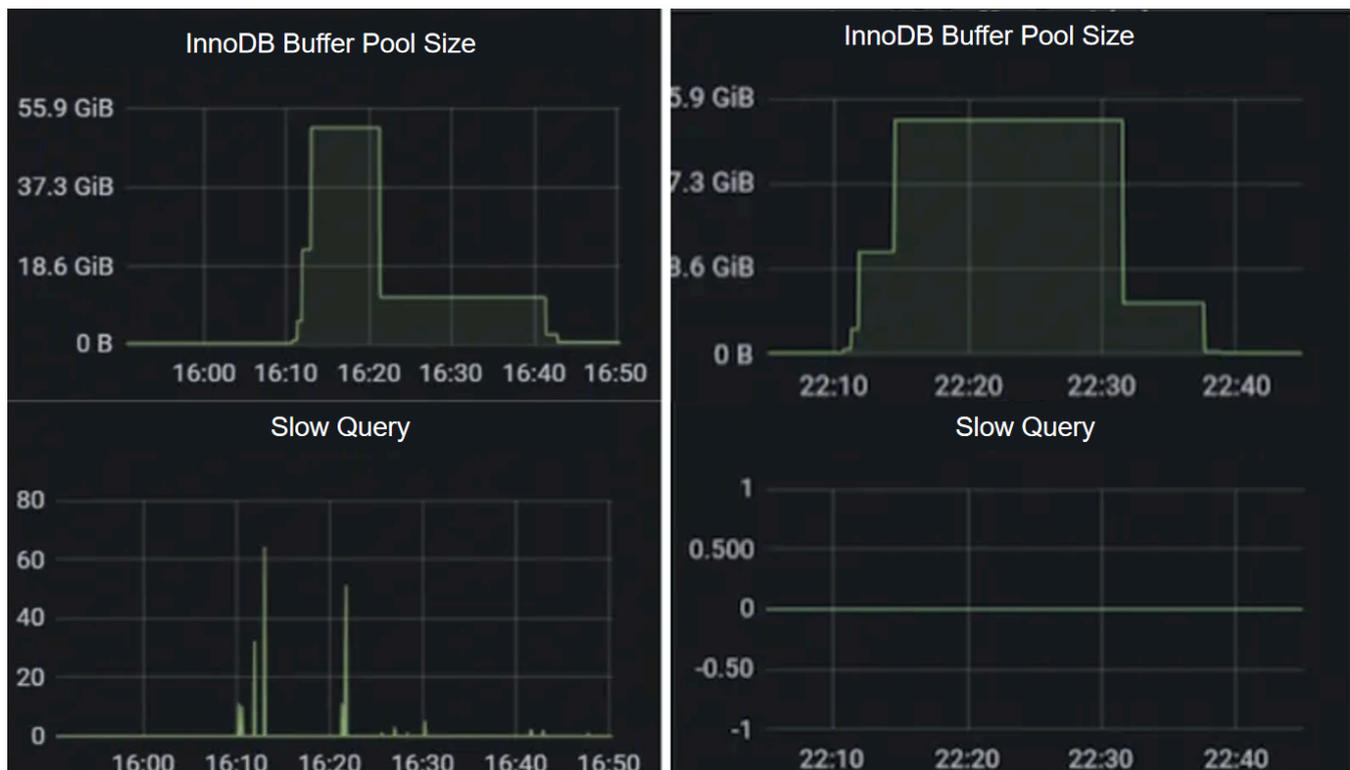
最適化ソリューション

最初の2つの段階に対して、カーネルチームはchunksの遅延解放と事前割り当て戦略を採用しました。これにより主要な作業をバッファプールミューテックスの外部で実行可能になります。元々 $O(N)$ の複雑さでは、ブロックの初期化と解放により N がブロック数でしたが、最適化後は $O(N)$ の N がchunks数となり、複雑さが相対的に管理可能

になります。Resize Hash段階については、本質的にRehash問題であり、根本的解決策はアルゴリズム最適化（例：ロックフリーハッシュやコンシステントハッシュ割当）です。ハッシュテーブルはInnoDBの基本要素であるため、この複雑さを変更するとリスクが高く周期も長くなります。ハッシュテーブルが大きすぎるとスペースが無駄になり（多くのセルが未使用）、小さすぎるとハッシュ衝突が増えて性能に影響します。カーネルチームはスペースと時間のトレードオフ戦略を採用し、トリガー頻度を設定可能にすることで、特定のスケール範囲内ではResize Hashを発生させないようにしています。

最適化効果

テストでは sysbench oltp_read_only を使用し、long_query_time = 0.1 を設定して、スロークエリを確認します。最適化前後の対比如下。



使用説明

上記のボトルネックと最適化対策として、カーネルチームによる直接的な最適化に加え、Resize Hash段階では関連パラメータ設定を提供しています。これによりユーザーはハッシュテーブルのサイズ変更を実施するかどうかを選択でき、ジッター発生を防止できます。ジッターの主原因はハッシュテーブルのサイズ変更に起因するため、ハッシュテーブルサイズを更新しなければジッターを防止できます。パラメータの詳細説明は以下の通りです。

パラメータ名	再起 動の 要否	グ ロー バル パラ メー タ	デ フォ ルト	パ ラ メ ー タ 値 の	説明

				範囲	
innodb_ncdb_decrease_buffer_pool_hash_factor	はい	いいえ	2	0 2	<p>バッファプールサイズ変更スレッドの頻度を調整すると、ハッシュテーブルのサイズが減少します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 値が2の場合はオフ状態を表し、バッファプールが1/2以上減少した際にハッシュテーブルサイズが更新されることを示します。 値が0の場合は有効状態を示し、ハッシュテーブルサイズが更新されないことを意味します。 <div style="border: 1px solid #00aaff; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>説明:</p> <p>このパラメータが有効状態の場合、ノードのコンピューティングリソース上限設定を変更すると、インスタンスが再起動します。</p> </div>

パラメータがサポートするカーネルバージョン

- カーネルバージョン TDSQL 5.7 2.1.12 以降。
- カーネルバージョン TDSQL 8.0 3.1.14 以降。

パラメータ設定方法

設定方法については、[インスタンスパラメータを設定する](#) を参照してください。

Parameter Name	Restart	Global Parameters	Default value	Current Value	Acceptable Values
innodb_ncdb_decrease_buffer_pool_hash_factor	Yes	No	2	2	[0,2]

サービス課金の説明

最終更新日: 2025-12-30 16:37:30

本稿は、TDSQL-C for MySQLのServerlessサービスの課金説明を紹介します。

課金モード

サーバーレスサービスのコンピューティングとストレージは別々に課金されます: コンピューティングはCCU数に基づいて課金され、ストレージは使用量 (GB) に基づいて課金されます。課金システムは秒単位で課金し、時間単位で決済します。

課金公式

Serverless総費用 = コンピュートノード費用 + ストレージスペース費用 = Serverlessコンピューティングパワー単価 × CCU量 + ストレージスペース単価 × ストレージスペース

サーバーレス・コンピューティングリソースの価格

課金単位	CCUの従量課金料金 (米ドル/個/秒)	
	対応済みリージョン: 広州、上海、北京、南京、成都 対応予定リージョン: 重慶	対応済みリージョン: 香港、シンガポール、シリコンバレー、フランクフルト、東京、バージニア、ソウル、ジャカルタ、サンパウロ、バンコク
Serverless インスタンス	0.00001397	0.00001529

📌 説明:

- CCU (TDSQL-Cコンピュートユニット) はServerlessのコンピューティング課金単位であり、1CCUはおおよそ1CPUと2GBメモリのコンピューティングリソースに相当します。各課金サイクルにおけるCCU使用量は、データベースが使用するCPUコア数とメモリサイズの1/2 (2分の1) のうち、最大値を採用します。
- [サービスコンピューティングリソース設定](#)を参考に、対応するCCUの最大値と最小値を選択してください。異なるコンピューティング設定に対応するストレージ容量の上限は異なります。ストレージ容量の上限については、[サービスコンピューティングリソース設定](#)を参照してください。

ストレージ容量の価格

Serverlessサービス版クラスタのストレージスペース課金方式は従量課金です。

ストレージ従量課金の価格

リージョン	レベル1ストレージ価格 (米ドル/GB/時間)
広州、上海、北京、南京、成都	0.00072
香港、シンガポール、シリコンバレー、フランクフルト、東京、バージニア、ソウル、ジャカルタ、サンパウロ、バンコク	0.000792

Serverlessリソースパック説明

TDSQL-C for MySQLでは **リソースパック** サービスをリリースしました。より低い単価でコンピューティングおよびストレージリソースを事前購入でき、コスト削減効果が得られます。以下ではリソースパックの定義と課金順序についてご説明します。

リソースパックはプリペイド型のリソース形態であり、コンピューティングリソースパックとストレージリソースパックに分類されます。これらはServerlessサービス版クラスターで発生するコンピューティングまたはストレージリソースの相殺に使用可能です。ユーザーがリソースパックを購入しバインディングすると、クラスターは優先的にリソースパックのコンピューティングまたはストレージリソースを消費します。有効期間内にリソースが消費し尽くされた場合、新規でリソースパックを購入し継続してバインディング利用できます。新たなリソースパックをバインディングせずにリソース相殺を行わない場合、当該クラスターは従量課金方式に自動移行します。その後、当該クラスター利用で発生する費用は、上述の課金計算式に基づき、お客様のTencent Cloudアカウント残高から請求されます。

❗ 説明:

<0>理解を容易にするため、以下ではリソースパックを携帯データ通信パックに例えます。通常、携帯データ通信料金が1ドル/GBの場合、ユーザーが10ドルで1ヶ月間の50GBデータ通信パックを一括購入すると、実質単価0.2ドル/GB相当となります。これにより、ユーザーは1ヶ月の有効期間内に0.2ドル/GBの優待単価をご利用いただけます。データ通信パックが有効期間内に使い切られた場合、新たに携帯データ通信パックを購入することで優待単価を継続してご利用いただけます。ユーザーが新たなデータ通信パックを購入・使用されない場合、データ通信料金は1ドル/GBの元の料金に戻ります。

サービス料金未払いの説明

最終更新日： 2025-12-30 16:37:30

インスタンス形態がServerlessのクラスタに関する料金未納の説明をご紹介します。

⚠ 注意

実際のリソース消費量は常に変動する可能性があるため、残高アラートには一定の誤差が生じる場合があります。

アラート説明

システムは毎正時にServerlessクラスタリソースに対して課金を実施します。アカウント残高が0未満になった場合、システムはメールおよびSMS等方式で、Tencent Cloudアカウントの作成者ならびにグローバルリソースコラボレーター、財務コラボレーターに通知いたします（実際の受信方法はユーザーの [メッセージセンター](#) における購読設定に準じます）。

料金未納処理

1. お客様のアカウント残高が0未満になった時点から：

- 24時間以内、TDSQL-C for MySQLクラスタは引き続きご利用いただけ、かつ課金が継続します。
- 24時間後、TDSQL-C for MySQLクラスタは自動的にごみ箱に隔離され、かつ課金が停止されます。

2. 隔離後：

- 隔離後3日以内に残高が0以上に達した場合、課金が継続され、未払いにより隔離されたクラスタは自動的に隔離が解除され、稼働が再開されます。
- 隔離から3日後、お客様のアカウント残高が0未満の状態である場合、隔離されたクラスタは停止され、回収キューに配置されます。回収後、すべてのデータが消去され、復元できなくなります。
クラスタが回収される際、システムはメールおよびSMS等方式で、Tencent Cloudアカウントの作成者ならびにグローバルリソースコラボレーター、財務コラボレーターに通知いたします（実際の受信方法はユーザーの [メッセージセンター](#) における購読設定に準じます）。

サーバーレス版クラスタの作成と管理

Serverless版クラスタの作成

最終更新日: 2026-02-06 19:48:28

本文では、TDSQL-C for MySQLコンソールを使用してServerless版クラスタを作成する操作について説明します。

前提条件

購入前に実名認証が必要です。詳細は[実名認証ガイド](#)を参照してください。

操作手順

1. [購入ページ](#)にログインし、データベース設定、インスタンスタイプの選択、およびストレージ設定を完了して、次へをクリックします。

パラメータ	説明
インスタンス形態	Serverlessを選択する。 Serverlessのコスト評価をサポートし、Serverlessサービスのコストがご予算要件を満たすかどうかをよりよく理解するのに役立ちます。詳細については、 Serverlessコスト見積もりツール をご参照ください。
インスタンスエンジン	トランザクションクラスタを選択します。Serverlessクラスタのインスタンスエンジンはトランザクションクラスタとしてのみ選択できます。 TDSQL-C for MySQLは2種類のインスタンスエンジンをサポートします: トランザクションクラスタと分析クラスタ。トランザクションクラスタは、 読み取り専用分析エンジンを有効にする を通じて、TXSQL読み書きインスタンスと連携してHTAP能力を提供します。分析クラスタには読み取り専用分析エンジンインスタンスのみ存在し、そして、Zero-ETL能力を通じて、設定されたデータソースデータを分析エンジンに同期します。
リージョン	ごデータベースのデプロイリージョンを選択してください。 現在Serverlessがデプロイ可能なリージョンについては マルチAZデプロイの概要 をご参照ください。お探しのデプロイリージョンがない場合は、 チケットを提出 してフィードバックしてください。
主アベイラビリティゾーン	デプロイするアベイラビリティゾーンを選択してください。対応するリージョン下のアベイラビリティゾーン分布は、実際の購入ページを基準としてください。
マルチAZデプロイ	マルチAZデプロイを有効にするかどうかを選択します。「はい」を選択すると、セカンドリAZオプションが表示されます。

セカンダリアベイラビリティゾーン	デフォルトで無効になっており、マルチAZデプロイを有効にした後、セカンダリAZを選択できます。マルチAZデプロイをサポートするリージョンおよびアベイラビリティゾーンについては、 マルチAZデプロイ をご参照ください。最新のサポートリージョンおよびアベイラビリティゾーンは、 購入ページ を基準としてください。
伝送リンク	デフォルト ハイIO版。
ネットワーク	データベースインスタンスのネットワークを選択してください。ネットワークタイプは現在 VPC のみサポートしています。 <ul style="list-style-type: none"> パフォーマンスとセキュリティの観点から、この項目で選択したVPC下のデバイスのみが、内網経由でこのデータベースインスタンスにアクセスできます。業務アクセスには内網アクセスをご利用ください。 非業務アクセス、例えばテストや補助管理などの場合、外部ネットワーク経由でデータベースインスタンスにアクセスすることも可能です。詳細な説明と注意事項については、外部ネットワーク接続の有効化/無効化をご参照ください。
データベースのバージョン	MySQL 5.7および8.0をサポートしています。
カスタムカーネルマイナーバージョン	カーネルマイナーバージョンを選択してください。サポートオプションはデフォルトとカスタムです。 <ul style="list-style-type: none"> デフォルト: デフォルトを選択すると、システムが自動的にカーネルマイナーバージョンを割り当てることを意味します。 カスタム: カスタムを選択する場合、安定版または新機能版の具体的なバージョンを選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> 安定版: 長期的な検証を経た安定バージョンで、更新頻度は3~4ヶ月です。 新機能版: 新しい機能特性を搭載した現行ネットワーク汎用カーネルマイナーバージョンです。
コンピューティング課金モード	従量課金またはリソースパックの選択をサポートしています。計算リソース固定枠のリソースパックは、従量課金製品で実際に発生した使用量を優先的に相殺するために使用されます。リソースパックの枠が消費し尽くされた後は、従量課金モードに基づき継続して課金されます。計算リソースパックは、実際に使用されたCCU量を秒単位で相殺するため、従量課金モードと比較してより割安で、より柔軟にご利用いただけます。
コンピューティングリソースパック（課金モードでリソースパックを選択した場合に表	リソースパックをバインドします。現在のアカウントで有効期間内の、クラスタが選択したリージョンのコンピューティングリソースパックを1つまたは複数（最大10個）バインドできます。利用可能なリソースパックがない場合は、先に リソースパックを購入 してください。

示される項目)	
Serverless アーキテク チャ	<p>シングルノード版またはクラスタ版アーキテクチャの選択がサポートされています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● シングルノード版アーキテクチャ: クラスタには読み書きインスタンスが1つのみ存在し、購入後はコンソールでクラスタ版アーキテクチャへの切り替えが可能です。 ● クラスタ版アーキテクチャ: クラスタには1つの読み書きインスタンスと1~15個の読み取り専用インスタンス（オプション）が含まれます。購入後、コンソールでシングルノードアーキテクチャへの切り替えが可能です。
コンピュー ティング設 定	<p>コンピューティング設定のCCU（TDSQL-C Compute Unit）上限と下限を選択します。インスタンスは選択されたリソース範囲に基づき、自動的に弾力的なスケールリングを実行します。</p> <p>CCU（TDSQL-C Compute Unit）はServerlessのコンピューティング課金単位であり、1つのCCUはおおよそ1個のCPUと2GBのメモリに相当するコンピューティングリソースです。各課金サイクルにおけるCCU使用量は、データベースが使用するCPUコア数とメモリサイズの1/2のうち、最大値となります。コンピューティング設定については、サービスコンピューティング設定を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● シングルノードアーキテクチャ: 読み書きインスタンスのコンピューティング範囲のみ設定する必要があります。 ● クラスタ版アーキテクチャ: 読み書きインスタンスのコンピューティング範囲を設定する必要があります。その後、読み取り専用グループ内の読み取り専用インスタンス数（1~15個）を選択し、読み取り専用グループ内ノードのコンピューティング範囲を設定します。このコンピューティング範囲は読み取り専用グループ内のすべてのノードに適用されます。
自動一時停 止	<p>インスタンスの自動一時停止時間を設定します。設定時間内にデータベースへの接続がない場合、インスタンスは自動的に一時停止します。インスタンスが一時停止した後は、コンピューティングリソースの課金が発生しません。</p>
ストレージ の課金モー ド	<p>従量課金またはリソースパックの選択をサポートしています。</p> <p>ストレージリソース固定枠のリソースパックは、従量課金製品で実際に発生した使用量を優先的に相殺するために使用されます。リソースパックの枠が消費し尽くされた後は、従量課金モードに基づき継続して課金されます。ストレージリソースパックは、実際に使用されたストレージ使用量を1時間ごとに相殺するため、従量課金モードと比較してより割安で、より柔軟にご利用いただけます。</p>
ストレージ リソース パック（課 金モードで リソース パックを選 択した場合	<p>ストレージリソースパックをバインドします。現在のアカウントで有効期間内の、クラスタが選択したリージョンのストレージリソースパックを1つまたは複数（最大10個）バインドできます。利用可能なリソースパックがない場合は、先にリソースパックを購入してください。</p>

に表示される項目)

2. 基本情報と詳細設定の設定を完了し、購入数量を選択します（各アベイラビリティーゾーンにおいて、ユーザーごとに購入可能なTDSQL-C for MySQLクラスタの総数は50個までです）。料金を確認後、購入するをクリックします。

● 基本情報

パラメータ	説明
クラスタ名	作成後に命名するか、すぐに命名するかを選択できます。60文字未満の中国語、英語、数字、「-」、「_」、「.」がサポートされています。
管理者ユーザー名	デフォルトは root です。
パスワード	8~64文字で、大文字小文字の英字、数字、および記号 ~!@#\$%^&*_-+= \(){}[];':<>.,?/ のうち任意の3種類が含まれている必要があります。
デフォルト文字セット	UTF-8、GBK、LATIN1、UTF8MB4を対応しています。
デフォルト照合順序	文字セットのデフォルト照合順序を選択してください。具体的なオプションは実際の購入ページに準じてください。
カスタムポート	デフォルトは3306で、カスタム入力サポートされています。ポート範囲：1024~65534。

● 高度な設定

パラメータ	説明
セキュリティグループ	セキュリティグループを選択または新規作成
パラメータテンプレート	パラメータテンプレートを選択または新規作成
テーブル名の大文字小文字区別	選択可能：区別なしまたは区別あり。
プロジェクトを指定します。	新規作成するクラスタの所属プロジェクトを指定します。
アラートポリシー	アラームポリシーを選択または新規作成
Tag	タグを追加し、リソースの分類と管理を容易に行えます。
契約条項	契約条項をお読みいただき、チェックボックスにチェックを入れてください。

- 購入が成功した後、[クラスタリスト](#)に戻り、クラスタの状態が稼働中と表示されれば、正常にご利用いただけます。

関連するAPI

API	説明
販売可能なリージョンとアベイラビリティゾーンの情報をクエリ	本インターフェース (DescribeZones) は販売可能なリージョンとアベイラビリティゾーンの情報をクエリするために使用されます。
Serverlessインスタンスの選択可能仕様のクエリ	本インターフェース (DescribeServerlessInstanceSpecs) はサーバーレスインスタンスの選択可能仕様をクエリするために使用されます。
新規購入クラスタ見積もり	本インターフェース (InquirePriceCreate) は新規購入クラスタの価格クエリのために使用されます。
複数仕様の価格クエリ	本インターフェース (InquirePriceMultiSpec) は一括見積もりに使用されます。
新しいクラスタを購入する	本インターフェース (CreateClusters) は新規クラスタ購入のために使用されます。
注文に関連付けられたインスタンスのクエリ	本インターフェース (DescribeResourcesByDealName) は注文に関連付けられたインスタンスのクエリのために使用されます。

読み取り専用インスタンスの作成と管理の実施

最終更新日: 2025-12-30 16:37:31

Serverless クラスタは、読み取り専用インスタンスを追加して読み取り性能と並行性を向上させ、マスターインスタンスの負荷を軽減することをサポートします。本稿では、TDSQL-C for MySQL コンソールを通じて Serverless クラスタ用の読み取り専用インスタンスを作成し、および読み取り専用インスタンスの設定調整を行う方法を紹介합니다。

料金説明

読み取り専用インスタンスの課金仕組みは読み書きインスタンスと一致します。詳細は [サービス課金の説明](#) をご参照ください。

読み取り専用インスタンスの作成

⚠ 注意:

- 現在のバージョンの読み取り専用インスタンスは、ノードリソースのスケールアップのみサポートしており、まだ読み取り専用インスタンスの数の弾力的な増減をサポートしていません。
- 購入した読み取り専用インスタンスグループは、構成オプションの調整を通じて、コンピューティングパワーやインスタンス数の変更を後から行うことができます。
- 読み取り専用インスタンスと読み書きインスタンスのコンピューティングパワーの範囲は共有されません。

Serverless クラスタを新規購入する時、読み取り専用インスタンスを作成する

- [TDSQL-C for MySQL 購入ページ](#) にアクセスします。
- Serverless アーキテクチャの後、クラスタ版を選択します。
- 読み取り専用グループの下方で、読み取り専用グループ内の読み取り専用ノードの数を選択します。最大15個の読み取り専用ノードを追加できます。

RO Group

Node pcs ⓘ

Min Max CCU

The compute unit range takes effect for all nodes in the RO group.

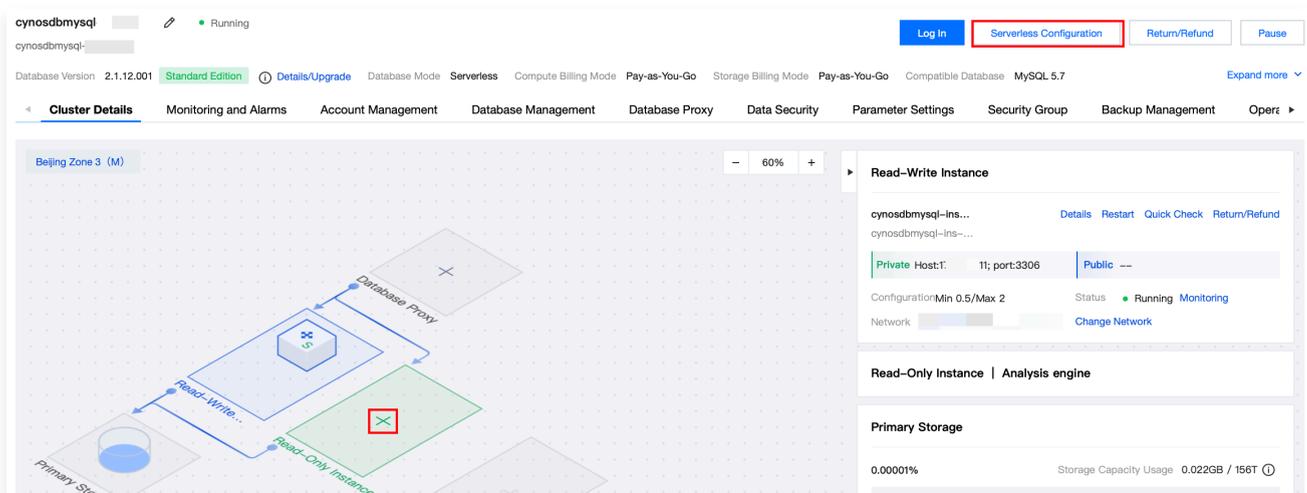
- 読み取り専用グループのコンピューティングパワー範囲を設定します。この範囲はグループ内のすべての読み取り専用ノードに適用されます。
- その他のServerlessクラスタの設定項目を設定したら、**今すぐ購入**をクリックします。その他のServerlessクラスタの設定説明の詳細については、[Serverlessクラスタの作成](#)をご参照ください。

既存のServerlessクラスタへの読み取り専用インスタンスの追加

❗ 説明:

クラスタの状態は起動状態である必要があり、停止状態ではクラスタに対して操作を行うことはできません。

- [TDSQL-C for MySQLコンソール](#)にログインし、画面上部でリージョンを選択します。
- 左側のクラスタリストでターゲットクラスタをクリックすると、クラスタ管理ページに移動します。
- クラスタ管理ページで、トポロジ図の読み取り専用インスタンスエリアにある"+"アイコンをクリックするか、または右上の**Serverless 設定**をクリックします。



- Serverless アーキテクチャの後、クラスタ版を選択します。
- 読み取り専用グループ内の読み取り専用ノードの数を必要に応じて増やします。最大15個の読み取り専用ノードを追加できます。
- 読み取り専用グループのコンピューティングパワー範囲を設定します。この範囲はグループ内のすべての読み取り専用ノードに適用されます。
- 今すぐ購入**をクリックすると、読み取り専用インスタンスの追加が完了します。

読み取り専用インスタンスの設定変更

読み取り専用インスタンスの数や読み取り専用グループのコンピューティングパワー範囲は、設定の調整によって変更できます。

⚠ 注意:

- クラスタの状態は起動状態である必要があり、停止状態ではクラスタに対する読み取り専用インスタンスの設定変更操作を行うことはできません。
- 読み取り専用インスタンスを追加または削減した後、手動で再負荷分散をトリガーしてトラフィックの均衡を実施します。
- 読み取り専用インスタンスの増減は設定変更ページでのみ可能で、手動での追加・削除はサポートされていません。
- スケールダウンによって削除された読み取り専用インスタンスはごみ箱に隔離されず、直接オフラインになります。読み取り専用インスタンスを追加する必要がある場合は、設定を調整して新規作成してください。
- データベースプロキシを有効化すると、Serverlessインスタンスがクロスマシンスケールアウトを実施する際、ほとんどの接続断絶問題を効果的に防止できます。ただし、アプリケーション側で再接続メカニズムを実装することを推奨します。

1. [TDSQL-C for MySQLコンソール](#)にログインし、画面上部でリージョンを選択します。
2. 左側のクラスタリストでターゲットクラスタをクリックすると、クラスタ管理ページに移動します。
3. クラスタ管理ページで、トポロジ図の読み取り専用インスタンスエリアにある"+"アイコンをクリックするか、または右上の**Serverless 設定**をクリックします。
4. ポップアップウィンドウで、変更したい読み取り専用ノードの数とコンピューティングパワーの範囲を選択し、**確定**をクリックすると、読み取り専用インスタンスの設定変更が完了します。

自動または手動による起動と停止の設定

最終更新日： 2026-01-29 17:43:32

本記事では、コンソールを通じてServerlessクラスタの自動または手動の起動と停止を設定する方法をご紹介します。

前提条件

既に [Serverless版クラスタを作成しました](#)。

自動起動と停止を設定する

Serverlessサービスは自動起動・停止機能をサポートしています。接続がない場合、インスタンスは自動的に一時停止します。タスク接続が入った場合、インスタンスは秒単位で中断なく自動的に起動します。コンソールを通じて、Serverlessクラスタの自動起動・停止機能の設定を有効または無効にできます。

❗ 説明:

- 自動一時停止を有効にした場合、自動一時停止時間を設定する必要があります（デフォルトは1時間）。データベースがこの時間内に接続とCPU使用がない場合、自動的に一時停止します。一時停止後、計算リソースは課金されませんが、ストレージは実際の使用量に応じて課金されます。
- 自動一時停止を無効にした場合、データベースは継続的に稼働し続け、接続やCPU使用がない場合、ユーザーが設定した最小CCU演算能力に基づいて課金されます。これは、ビジネスでハートビート接続を必要とするアプリケーションシナリオに適しています。

方法1: クラスタ作成時の自動起動・停止の有効化

クラスタを作成する際に、この方法を参考にすることができます。

- ログイン [購入ページ](#)。
- インスタンス形態で **Serverless** を選択してください。
- インスタンスタイプ > 自動一時停止で「データベースが設定時間内に未使用の場合、自動的に一時停止状態になります。一時停止後、計算リソースは課金対象外となります。チェックを外すとデータベースは継続的に稼働し、この設定はコンソールで変更可能です」にチェックを入れます。



- 自動一時停止の時間を設定します（設定範囲：日数 0~7、時間 0~23、分 0・10・20・30・40・50）。
- その他の設定を完了した後、クラスタを購入します。

方法2: コンソールによる自動起動・停止機能の有効化

クラスタ作成時に「データベースが設定時間内に未使用の場合、自動的に一時停止状態になります。一時停止後、計算リソースの課金が停止されます。チェックを外すとデータベースは継続的に稼働し、この設定はコンソールで変更可能です」にチェックを入れなかった場合、自動起動・停止機能が有効になっていないことを意味します。以下の方法を参考にすることができます。

1. [TDSQL-C for MySQLコンソール](#)にログインします。
2. 左側のクラスタリストでターゲットクラスタをクリックすると、クラスタ管理ページに移動します。
3. トポロジ図の読み取り専用インスタンス領域で「+」アイコンをクリックするか、右上のServerless設定をクリックします。
4. ポップアップウィンドウで「データベースが設定時間内に未使用の場合、自動的に一時停止状態になります。一時停止後、計算リソースは課金対象外となります。チェックを外すとデータベースは継続的に稼働し、この設定はコンソールで変更可能です」にチェックを入れます。
5. 自動一時停止の時間を設定します（設定範囲：日数 0~7、時間 0~23、分 0・10・20・30・40・50）。
6. 確定をクリックします。

手動起動・停止を設定する

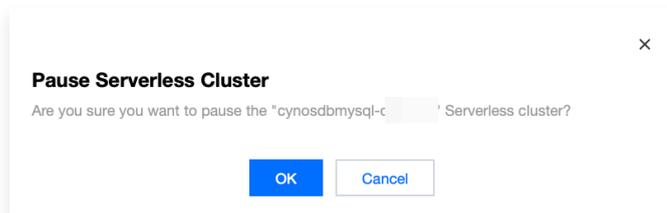
Serverlessクラスタで自動起動・停止機能が有効になっていない場合、手動で一時停止および起動が可能です。Serverlessクラスタで自動起動・停止機能が有効になっており、かつ現在のクラスタが接続がないために一時停止状態にある場合、手動でクラスタを起動できます。

コンソールを介して手動でクラスタを一時停止する

❗ 説明:

接続中にクラスタを一時停止すると、進行中のビジネスに影響が生じる可能性があります。操作にはご注意ください。自動起動・停止機能の設定を推奨します。

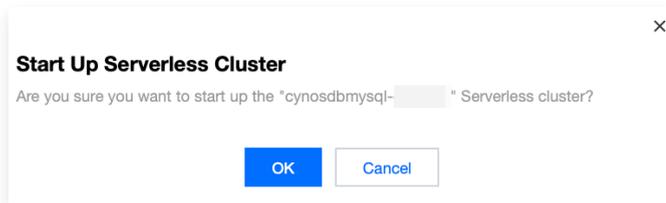
1. [TDSQL-C for MySQLコンソール](#)にログインします。
2. 左側のクラスタリストでターゲットクラスタをクリックすると、クラスタ管理ページに移動します。
3. 右上で一時停止をクリックします。
4. ダイアログで確定をクリックします。



コンソールで手動でクラスタを起動する

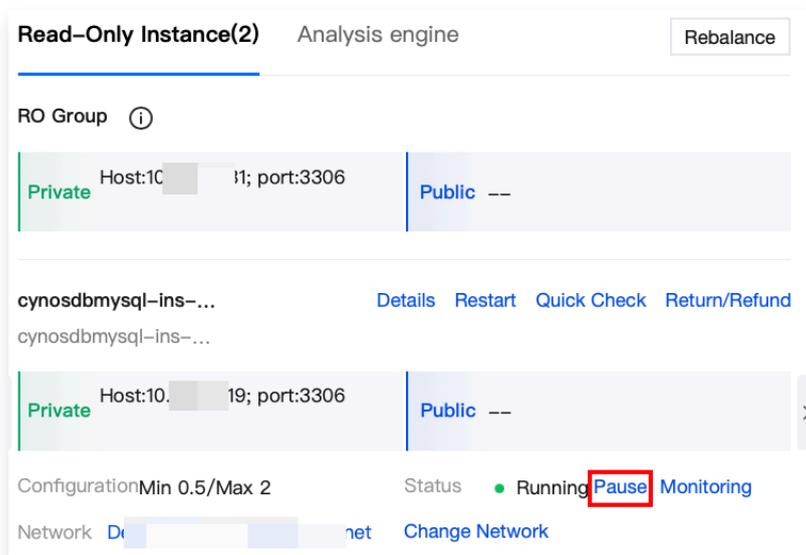
1. [TDSQL-C for MySQLコンソール](#)にログインします。
2. 左側のクラスタリストでターゲットクラスタをクリックすると、クラスタ管理ページに移動します。

3. 右上で**起動**をクリックします。
4. ダイアログで**確定**をクリックします。



コンソールによるクラスタ配下の読み取り専用インスタンスの手動一時停止または起動

1. [TDSQL-C for MySQLコンソール](#) にログインします。
2. 左側のクラスタリストで**ターゲットクラスタ**をクリックすると、クラスタ管理ページに移動します。
3. 右側のインスタンス情報の下で、対象の読み取り専用インスタンスを見つけ、ステータスの後ろにある**一時停止**または**起動**をクリックします。



4. ダイアログで**確定**をクリックします。

関連するAPI

API	説明
Serverless ポリシーの変更	本インターフェース (ModifyServerlessStrategy) はServerlessのポリシーを変更するために用いられます。
Serverlessクラスタの一時停止	本インターフェース (PauseServerless) はServerlessクラスタを一時停止するために用いられます。

伸縮性スケーリング管理ツール ルールの柔軟性設定

最終更新日: 2026-03-03 14:30:32

Serverlessクラスターは、ビジネストラフィック状況に基づき、クラスター配下のインスタンスにルールベースのスケーリングポリシーを設定することをサポートします。設定後、当該インスタンスは事前定義されたルールベースのスケーリングポリシーに従い、スケーリング計画に基づいてコンピューティング範囲の弾力的な調整をトリガーし、ビジネスピーク時に発生する可能性のあるパフォーマンスジッターを回避します。各種周期のルールベーススケーリングポリシーを設定することで、ビジネスの異なる時間帯における性能ニーズを保障できます。また、コンソールを通じてルールベースのスケーリングポリシーと実行計画のクエリおよび管理が可能です。本ドキュメントでは、ルールベーススケーリング機能の説明と関連操作についてご紹介します。

料金説明

ルールベーススケーリング機能は現在パブリックベータ段階にあり、当面の間課金いたしません。

サポート形態およびバージョン説明

- Serverlessインスタンス形態のクラスターでは、クラスター配下のServerlessインスタンスに対してこの機能の設定をサポートしています。
- TDSQL-C for MySQLのデータベースバージョンであるMySQL 5.7とMySQL 8.0はいずれもこの機能をサポートします。

機能説明

- Serverlessクラスターのコンピューティング範囲は、デフォルトでクラスター作成時の設定となります。ルールベーススケーリング機能を有効にする場合は、コンソールからルールベーススケーリングポリシーを追加できます。ポリシーを追加すると、ルールベーススケーリング機能が有効になります。
- Serverlessクラスター配下の読み書きインスタンスまたは読み取り専用インスタンスに対して、ルールベーススケーリングポリシーを追加できます。
- Serverlessクラスター配下のインスタンスにルールベーススケーリングポリシーを追加した後、当該ポリシーをレプリケーション、変更または削除できます。
- Serverlessクラスター配下のインスタンスにルールベーススケーリングポリシーを追加した後、対応するスケーリング計画を照会できます。コンソールには、当該スケーリングルールポリシーの中で最も時間的に近いスケーリング計画が表示されます。スケーリング計画の実行前であれば、手動で計画をキャンセルすることをサポートします。
- 同一Serverlessクラスター配下で、同一タイプのインスタンス（読み書きインスタンスまたは読み取り専用インスタンス）がルールベーススケーリングポリシーを設定する際に、当該インスタンスの既存のルールベーススケーリングポリシーと重複する時間帯を設定することはできません。

- ルールベーススケーリングポリシーを設定する際、最小および最大コンピューティング能力は、対応するインスタンスの現在のコンピューティング範囲外に設定できません。より大きなコンピューティング能力を設定する必要がある場合は、まず [構成調整](#) を行ってください。
- 「一時停止」状態のクラスタでは以下の操作は実行できません。クラスタを起動してから対応する操作を行ってください。

ルールベーススケーリング機能を有効化する

1. [TDSQL-C for MySQLコンソール](#) にログインします。
2. 左側のクラスタリストで対象クラスタをクリックし、[クラスタ管理ページ](#) に移動します。
3. [伸縮性スケーリング管理ツール](#) > [ルールベーススケーリング](#) を選択し、[ポリシーの追加](#) をクリックします。



4. ポリシーリストで、ポリシーの設定が完了したら、操作列の [確定](#) をクリックします。



パラメータ	説明
ポリシーID	ポリシー設定が完了すると、システムはポリシーIDを生成します。これはポリシーのクエリとスケーリング計画の照合に用いられます。
インスタンスタイプ	クラスタアーキテクチャがシングルノードの場合は、この項目はデフォルトで読み書きインスタンスとなります。クラスタアーキテクチャがクラスタ版の場合は、この項目で読み書きインスタンス、読み取り専用インスタンスのカスタム選択をサポートします。
重複ルール	重複ルールを設定してください。 <ul style="list-style-type: none"> ● 毎日: 周期が毎日の場合は、開始時刻と終了時刻を設定してください。例: 01:00 – 02:00。 ● 毎週: 周期が毎週の場合は、まず曜日を選択します。デフォルトで1（月曜日を表す）がチェックされており、範囲: 1~7、複数選択可です。その後、開始時刻と終了時刻を設定します。 ● 毎月: 周期が毎月の場合は、まず日付を選択します。デフォルトで1（毎月1日を表す）がチェックされており、範囲: 1~31、複数選択に対応します。その後、開始時刻と終了時刻を設定します。
エラスティックレンジ (CCU)	エラスティックレンジを設定してください。設定に関する制限事項については、 機能説明 をご参照ください。
有効期間	このルールのエラスティックポリシーが有効になる時間範囲を設定してください。例: 2026-03-01 00:00:00 ~ 2026-03-15 23:59:59。

	<p>! 説明:</p> <p>秒単位まで対応しています。設定時に日付のみを選択し、具体的な時間を選択しなかった場合、時間はデフォルトで開始日の00:00:00 ~ 終了日の23:59:59となります。</p>
有効状態	現在のルールのエラスティックポリシーが有効かどうかを表示します。
操作	<ul style="list-style-type: none"> ● 確定: クリックして設定を完了します。 ● 取消: クリックして設定を取消します。

レプリケーションルールのエラスティックポリシー

ルールベースのエラスティックポリシーを複製することで、既存のルールベースのエラスティックポリシーをすばやく複製し、それを基に編集することができます。操作位置は以下の通りです。

Policy ID	Instance Type	Recurrence Rule	Elastic Scaling Range...	Effective Period	Enabling Status	Operation	
cynosdbmysql-4...	cm	Read-Write Instance	Daily 01:00 - 02:00	0.25 - 2	2026-02-27 00:00:00 - 2026-03-27 23:59:59	Valid	Copy Edit Delete

既存のルールベースのエラスティックポリシーを変更する

ルールベースのエラスティックポリシーを編集することで、既存のポリシーのルール変更が可能です。変更内容には以下が含まれます: 周期の変更、時間帯の変更、エラスティック範囲の変更、有効期間の変更。操作位置は以下の通りです。

Policy ID	Instance Type	Recurrence Rule	Elastic Scaling Range...	Effective Period	Enabling Status	Operation
cynosdbmysql-spd-20b5zhcm	Read-Write Instance	Daily 01:00 - 02:00	0.25 - 2	2026-02-27 00:00:00 - 2026-03-27 23:59:59	Valid	Copy Edit Delete

ルールベースのエラスティックポリシーを削除する

不要になったルールベースのエラスティックポリシーは削除できます。操作位置は以下の通りです。

Policy ID	Instance Type	Recurrence Rule	Elastic Scaling Range...	Effective Period	Enabling Status	Operation	
cynosdbmysql-4...	cm	Read-Write Instance	Daily 01:00 - 02:00	0.25 - 2	2026-02-27 00:00:00 - 2026-03-27 23:59:59	Valid	Copy Edit Delete

×

Delete

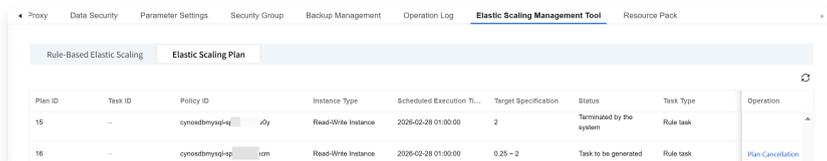
Are you sure you want to delete the policy cynosdbmysql-spd-20b5zhcm?

OK
Cancel

エラスティックプランのクエリとキャンセル

1. [TDSQL-C for MySQLコンソール](#)にログインします。
2. 左側のクラスターリストで対象クラスターをクリックし、[クラスター管理ページ](#)に移動します。

3. 伸縮性スケーリング管理ツール > スケーリング計画を選択すると、リストで詳細なスケーリング計画を照会できます。これには、システムによって終了された過去のスケーリング計画、キャンセル中またはキャンセル済みのスケーリング計画、タスク生成待ちのスケーリング計画が含まれます。



The screenshot shows the 'Elastic Scaling Plan' section of the Tencent Cloud console. It contains a table with the following data:

Plan ID	Task ID	Policy ID	Instance Type	Scheduled Execution Time	Target Specification	Status	Task Type	Operation
15	--	cynosdbmysql-hj	Read-Write Instance	2028-02-28 01:00:00	2	Terminated by the system	Rule task	
16	--	cynosdbmysql-sp	Read-Write Instance	2028-02-28 01:00:00	0.25 - 2	Task to be generated	Rule task	Plan Cancellation

4. タスク生成待ちのスケーリング計画をキャンセルする場合は、計画のキャンセルをクリックし、ポップアップウィンドウで**確定**をクリックします。

Serverlessリソースパック

リソースパックの概要

最終更新日: : 2026-01-29 17:43:33

リソースパックはTDSQL-C for MySQLが提供するプリペイドリソースの種類であり、コンピューティングリソースパックとストレージリソースパックに分けられます。これらはServerless版クラスタで発生するコンピューティングリソースとストレージリソースの費用に充当できます。リソースパックを利用することで事前にリソースを確保できるほか、従量課金方式と比較してより多くのコスト削減が可能です。リソースパックの購入容量が大きいほど、有効期間が長いほど、よりお得になります。

リソースパックの説明

リソースパック (前払い)	コンピューティングリソースパック	ストレージリソースパック
充当対象	コンピューティングリソース固定額のリソースパックは、リソースパックがバインドされたServerless版クラスタで発生するコンピューティングリソースを優先的に充当するために用いられます。リソースパックのクォータが消耗した後、クラスタは従量課金方式で引き続き課金されます。	ストレージリソース固定枠のリソースパックは、リソースパックがバインドされたServerless版クラスタで発生するストレージリソースを優先的に充当するために用いられます。リソースパックの枠が消耗した後、クラスタは従量課金方式で引き続き課金されます。
充当説明	コンピューティングリソースパックは実際に使用されたCCU量に基づき秒単位で充当され、従量課金モードに比べてよりお得で柔軟にご利用いただけます。Serverless版クラスタで充当を行うには、事前にリソースパックのバインドが必要です。リソースパックのアンバインド、有効期限切れ、または使用量枯渇後もクラスタは破棄されず、従量課金方式に切り替わって課金が継続されます。	ストレージリソースパックは実際に使用されたストレージ量に基づき時間単位で充当され、従量課金モードに比べてよりお得で柔軟にご利用いただけます。Serverless版クラスタで充当を行うには、事前にリソースパックのバインドが必要です。リソースパックのアンバインド、有効期限切れ、または使用量枯渇後もクラスタは破棄されず、従量課金方式に切り替わって課金が継続されます。
継続支払い機能	サポートされていません。	サポートされていません。
一括でリソース	サポートしています。1つのクラスタは最大同時に10個のコンピューティン	サポートしています。1つのクラスタは最大同時に10個のストレージリソースパックのバインドを

パックをバインドする	グリソースパックのバインドをサポートします。	サポートします。
消費優先順位	<p>1つのクラスタが複数のリソースパックをバインドする場合、バックエンドはバインドされた順序に基づいてリソースパックの消費優先順位を自動的に設定します。また、手動で 消費優先順位の調整 もサポートしており、消費ルールは優先レベル（1-10）の小さいものから順に消費されます。</p> <div style="border: 1px solid #00aaff; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>① 説明:</p> <ul style="list-style-type: none"> コンピューティングリソースパックとストレージリソースパックの消費優先順位はそれぞれ設定され、設定された優先順位は同一種類のリソースパックタイプにのみ適用されます。例えば、1つのクラスタが2つのコンピューティングリソースパックをバインドしている場合、コンピューティングリソースパックの消費優先順位をそれぞれ1と2に設定すると、優先順位1のコンピューティングリソースパックから消費されます。 デフォルトで最初にバインドされたリソースパックの消費優先順位は1となり、以降、同様に設定されます。 リソースパックが使い切られた場合、またはリソースパックの有効期限が切れた場合、対応するリソースパックの消費優先順位の設定はクリアされます。 </div>	
相殺サイクル	毎秒の実際の使用量に基づき累積で控除されます。	1時間あたりの平均実際ストレージ使用量に基づいて控除されます。
有効期間	有効期間は6ヶ月（180日）または1年（365日）であり、期限切れのリソースパックは引き続き使用できません。	有効期間は6ヶ月（180日）または1年（365日）であり、期限切れのリソースパックは引き続き使用できません。
リージョン	中国国内共通、香港・マカオ・台湾および海外共通。	中国国内共通、香港・マカオ・台湾および海外共通。
リソースパックのご利用になります。	<ul style="list-style-type: none"> リソースパックを購入する リソースパックのバインドまたはアンバインド 	<ul style="list-style-type: none"> リソースパックを購入する リソースパックのバインドまたはアンバインド

対応リージョン

国内共通リソースパック	香港・マカオ・台湾および海外共通リソースパック
広州、南京、上海、北京、成都、重慶、北京金	香港、シンガポール、ソウル、東京、シリコンバレー、

融リージョン、上海金融リージョン

バージニア、フランクフルト

課金方式

サーバーレスクラスタでは、以下の4つの課金組み合わせ方式を柔軟に選択いただけます。「コンピューティングリソースパック + ストレージリソースパック」の課金方式を選択すると、年/月単位サブスクリプションよりもお得な価格でご利用いただけます。

- コンピューティング従量課金 + ストレージリソースパック
- コンピューティングリソースパック + ストレージ従量課金
- コンピューティング従量課金 + ストレージ従量課金
- コンピューティングリソースパック + ストレージリソースパック

コンピューティングリソースパックとストレージリソースパックの詳細については、[コンピューティングリソースパック](#) および [ストレージリソースパック](#) をご参照ください。

関連するAPI

API	説明
リソースパックリストをクエリする	本インターフェース (DescribeResourcePackageList) はリソースパックリストのクエリに使用されます。

リソースパックの購入

最終更新日： 2026-01-29 17:43:33

本ドキュメントでは、リソースパックの購入方法について説明します。

前提条件

Tencent Cloudアカウントの登録および実名認証が完了していること。

- [Tencent Cloudアカウント](#) を登録します。
- [実名認証](#) を完了する。

リソースパックの購入

1. [TDSQL-C for MySQLコンソール](#) にログインします。
2. 左側のナビゲーションバーでリソースパックを選択します、次にリソースパックの購入をクリックします。

❗ 説明:

また、直接 [リソースパック購入ページ](#) にアクセスして購入することもできます。

3. 実際のニーズに応じて各設定情報を選択します。問題ないことを確認した後、**今すぐ購入** をクリックします。

パラメータ	説明
リソースパックタイプ	ニーズに応じてリソースパックタイプを選択します。コンピューティングリソースパック、ストレージリソースパックに対応しています。
リージョン	リソースパックが適用可能なリージョンを選択し、クラスタのデプロイリージョンとして設定します。中国本土汎用、香港・マカオ・台湾および海外汎用の2種類の汎用リージョンをサポートしています。
リソースパックスペック	基礎版、汎用版、エンタープライズ版の3種類のスペックから選択できます。 <ul style="list-style-type: none">● 購入容量が大きいほど割引率が高くなります。詳細な価格説明については、コンピューティングリソースパック と ストレージリソースパック をご参照ください。● Serverless形態を使用することでデータベースの利用コストを削減できます。コスト見積もりツール をご利用いただき、Serverlessの利用費用を評価するお役に立ちます。
リソースパックの命名	作成後に命名（デフォルト）またはすぐに命名（選択後はカスタム名を入力可能、60文字未満の中国語/英語/数字/「-」/「_」/「.」に対応）を選択できます。
契約条項	契約条項をお読みいただき、チェックボックスにチェックを入れてください。

数量	リソースパックの数量を選択します。同スペックの複数リソースパックの一括購入をサポートします。
----	--

関連ドキュメント

- [リソースパックの概要](#)
- [コンピューティングリソースパック](#)
- [ストレージリソースパック](#)
- [リソースパックのバインドまたはアンバインド](#)

関連するAPI

API	説明
リソースパック仕様の照会	本インターフェース (DescribeResourcePackageSaleSpec) はリソースパック販売仕様のクエリに使用されます。
新規リソースパック購入	本インターフェース (CreateResourcePackage) は新規リソースパック購入のために使用されます。

コンピューティングリソースパック

最終更新日: 2026-01-29 17:47:35

計算リソースパックはTDSQL-C for MySQLが提供するプリペイドリソースタイプであり、Serverlessインスタンスで使用される計算リソースの相殺に利用できます。リソースパックはServerless計算リソースの従量課金モードに影響を与えません。リソースパックご利用後、1時間ごとにリソース決済が行われ、実際の使用量に基づいて購入済みリソースパックから相殺されます。これにより、Serverlessの高精度課金モードを享受しつつ、よりお得な計算リソース価格で利用可能です。本ドキュメントでは計算リソースパックの仕様タイプ及び価格についてご紹介します。

仕様タイプ及び価格

仕様タイプ	CCUの適用範囲	中国本土共通単価 (単位: 米ドル/万CCU)	香港・マカオ・台湾および海外地域の共通単価 (単位: 米ドル/万CCU)
ベーシック版	40万~1000万 (1000万を除く)	6ヶ月有効期間: 0.0119 1年有効期間: 0.0126	6ヶ月有効期間: 0.013 1年有効期間: 0.0138
汎用版	1000万~4000万 (4000万を除く)	6ヶ月有効期間: 0.0112 1年有効期間: 0.0119	6ヶ月有効期間: 0.0122 1年有効期間: 0.013
企業版	4000万~20000万 (20000万を除く)	6ヶ月有効期間: 0.0105 1年有効期間: 0.0112	6ヶ月有効期間: 0.0115 1年有効期間: 0.0122

📌 説明:

CCU (TDSQL-C Compute Unit) はServerlessのコンピューティング課金単位であり、1つのCCUはおおよそ1つのCPUと2GBのメモリに相当するコンピューティングリソースです。各課金サイクルにおけるCCU使用量は、データベースが使用するCPUコア数とメモリサイズの1/2のうち、最大値が採用されます。

事例

以下では、2つのケース（リソースパック未使用ケースとリソースパック使用ケース）を比較することで、コンピューティングリソースのコスト差をより直感的に理解できます。

ケース背景

- リージョン: 北京。
- インスタンスタイプ: Serverless シングルノード版。
- 最初のケース: コンピューティングリソースパックを使用せず、従量課金を採用。これをケースAとします。

- 2番目のケース：コンピューティングリソースパックを使用し、基本版コンピューティングリソースパックを購入・バインド済み、CCU量40万、有効期間6ヶ月。これをケースBとします。
- 実行シナリオ：ケースAとケースBはそれぞれ毎秒1CCU（毎秒1コア2GBのフルロードに相当）の量で10時間継続して実行されます。以下に、この10時間のコンピューティングリソースコストを計算・比較します。

費用比較

比較項目	インスタンスA（コンピューティングリソースパック未使用）	ケース B（コンピューティングリソースパック使用）
課金公式	コンピューティングリソースコスト = Serverless コンピューティングパワー単価 × CCU量	コンピューティングリソースコスト = Serverless コンピューティングパワー単価 × CCU量
課金モード	従量課金	コンピューティングリソースパック
サーバーレス・コンピューティングリソースの価格（単価）	0.00001397 USD/個	0.0119 USD/万 CCU、すなわち 0.00000119 USD/個
CCU量	36000個 実行シナリオに基づいて計算すると、ケースAは毎秒1CCUの量で10時間継続して実行され、この10時間の総CCU量は次のようになります：1CCU × 3600秒 × 10時間 = 36000個	36000個 実行シナリオに基づいて計算すると、インスタンスBは毎秒1CCUの量で10時間継続して実行され、この10時間の総CCU量は次のようになります：1CCU × 3600秒 × 10時間 = 36000個
コンピューティングリソースコスト	$0.00001397 \times 36000 = 0.50$ USドル	$0.00000119 \times 36000 = 0.04$ USドル
以降の課金	ケースAの以降の稼働では引き続き従量課金を採用しますので、新たな費用が発生します。	ケースBが購入したコンピューティングリソースパックの総量は40万CCUであり、この10時間で3.6万CCUを消費しました。 残量は36.4万CCU です。以降はこのコンピューティングリソースパックの消費が継続され、リソースパックが消費し尽くされるか有効期限が切れるまで続きます。それまでケースBは従量課金に戻りません。コンピューティングリソースパックが消費し尽くされる前に、他のコンピューティングリソースパックを追加購入・バインドして利用することも可能です。

比較結果

上記の比較から分かるように、リソースパックのServerlessコンピューティングパワー単価は従量課金単価より低いため、全体のコンピューティングリソースコストが削減され、リソースパックの利用がよりお得です。仕様タイプ（基本版、汎用版、エンタープライズ版）ごとにリソースパック単価が異なりますので、実際に必要なCCU量に基づいて適切な仕様タイプを選択できます。

説明事項

リソースパックは実際に使用されたCCU量を秒単位で累積して差し引くため、従量課金モードよりも割安で柔軟性が高いです。Serverlessサービス版クラスタで差し引きを行う前に、まずリソースパックを紐付ける必要があります。リソースパックの紐付け解除、有効期限切れ、または使用量の枯渇後もクラスタは破棄されず、従量課金に切り替わります。これ以外に、以下の注意点にご留意ください：

- コンピューティングリソースパックは中国本土向け汎用と香港・マカオ・台湾および海外向け汎用の2種類に分かれており、各タイプで規定されたリージョン内のすべてのServerless版クラスタで共有使用されます。つまり、1つのコンピューティングリソースパックが複数のServerless版クラスタで共用可能です。
- 1つのServerless版クラスタには最大10個のコンピューティングリソースパックをバインドでき、複数のコンピューティングリソースパックに対して [消費優先順位の調整](#) をサポートします。クラスタは優先度の数字が小さい順にリソースを消費します。
- コンピューティングリソースパックは秒単位での使用量を累積して差し引きます。
- 購入済みのコンピューティングリソースパックのダウングレードはサポートされていません。

管理

- [リソースパックのバインドまたはアンバインド](#)
- [リソースパックの使用量の詳細を表示する](#)
- [リソースパック名を変更する](#)

返金

有効期間内に使い切れなかったリソースパックについては、各Tencent Cloudアカウント（ルートアカウント）が自然年ごとに計算し、年間最大20回のリソースパック返金が可能です。有効期限切れまたは使用済みのリソースパックは、現在返金をサポートしていません。詳細な返金説明については、[リソースパック返金説明](#) をご参照ください。

ⓘ 説明：

返金回数の制限について、システムは自然年ごとに計算します。最初の自然年サイクルは2023年6月30日 23:59:59～2024年7月1日00:00:00となり、毎年7月1日00:00:00に回数のリセットされます。したがって、2番目の自然年サイクルは2024年7月1日00:00:00～2025年6月30日23:59:59となり、以降も同様に続きます。

関連ドキュメント

- [ストレージリソースパック](#)
- [リソースパッケージの購入](#)

関連するAPI

API	説明
新規リソースパック購入	本インターフェース（CreateResourcePackage）は新規リソースパック購入のために使用されます。

ストレージリソースパック

最終更新日: 2026-01-29 17:47:35

リソースパックは、TDSQL-C for MySQLが導入したプリペイドリソースタイプであり、サーバーレスインスタンスで使用されるストレージリソースを控除するために使用できます。リソースパックは、サーバーレスストレージリソースの従量課金モードに影響しません。お客様がリソースパックを使用した後、1時間ごとにリソースの決済を行い、実際の使用量に基づいてお客様が購入したリソースパックで控除します。これにより、サーバーレスの高精度課金モードを享受しながら、お客様はさらに、よりお得なストレージリソース価格を享受できます。本稿では、リソースパックの仕様タイプおよび価格をご紹介します。

仕様タイプ及び価格

仕様タイプ	ストレージ容量の適用範囲	中国本土共通単価 (単位: 米ドル/TB)	香港・マカオ・台湾およびその他の地域共通単価 (単位: 米ドル/TB)
ベーシック版	2TB~200TB (200TBを除く)	6ヶ月有効期間: 0.2568 1年有効期間: 0.271	6ヶ月有効期間: 0.2806 1年有効期間: 0.2962
汎用版	200TB~2000TB (2000TBを除く)	6ヶ月有効期間: 0.2425 1年有効期間: 0.2568	6ヶ月有効期間: 0.265 1年有効期間: 0.2806
企業版	2000TB~20000TB (20000TBを除く)	6ヶ月有効期間: 0.2282 1年有効期間: 0.2425	6ヶ月有効期間: 0.2494 1年有効期間: 0.265

事例

以下では、2つのケース（ストレージリソースパック未使用ケースとストレージリソースパック使用ケース）を比較することで、ストレージリソースのコスト差をより直感的に理解できます。

ケース背景

- リージョン: 北京。
- インスタンスタイプ: Serverless シングルノード版。
- 最初のケース: ストレージリソースパックを使用せず、従量課金を採用。これをケースAとします。
- 2番目のケース: ストレージリソースパックを使用し、基本版ストレージリソースパックを購入・バインド済み、ストレージ容量10TB、有効期間6ヶ月。これをケースBとします。
- 実行シナリオ: インスタンスAとインスタンスBはそれぞれ3時間連続で稼働し、第1時間のストレージ使用量は0.5TB、第2時間は1TB、第3時間は2TBでした。以下でこの3時間のストレージリソース費用を計算・比較します。

費用比較

比較項目	インスタンスA (ストレージリソースパック未使用)	インスタンスB (ストレージリソースパックを使用)
課金公式	ストレージリソースコスト = ストレージ容量単価 × ストレージ容量 3時間のストレージリソース総費用 = 第1時間のストレージリソース費用 + 第2時間のストレージリソース費用 + 第3時間のストレージリソース費用	ストレージリソースコスト = ストレージ容量単価 × ストレージ容量 3時間のストレージリソース総費用 = 第1時間のストレージリソース費用 + 第2時間のストレージリソース費用 + 第3時間のストレージリソース費用
課金モード	従量課金	ストレージリソースパック
ストレージ容量の価格 (単価)	0.00072 USD/GB 約0.72 USD/TB	0.2568 USD/TB
ストレージスペース	第1時間のストレージスペース使用済み量: 0.5TB 第2時間のストレージスペース使用済み量: 1TB 第3時間のストレージスペース使用済み量: 2TB	第1時間のストレージスペース使用済み量: 0.5TB 第2時間のストレージスペース使用済み量: 1TB 第3時間のストレージスペース使用済み量: 2TB
ストレージリソースコスト	$0.72 \times 0.5 + 0.72 \times 1 + 0.72 \times 2 = 2.52$ USドル	$0.2568 \times 0.5 + 0.2568 \times 1 + 0.2568 \times 2 = 0.8988$ USドル
以降の課金	ケースAの以降の稼働では引き続き従量課金を採用しますので、新たな費用が発生します。	ケースBが購入したストレージリソースパックの総量は10TBであり、この3時間で3.5TBを消費しました。 残量は6.5TBです 。以降はこのストレージリソースパックの消費が継続され、リソースパックが消費し尽くされるか有効期限が切れるまで続きます。それまでケースBは従量課金に戻りません。ストレージリソースパックが消費し尽くされる前に、他のストレージリソースパックを追加購入・バインドして利用することも可能です。

比較結果

上記の比較から分かるように、ストレージリソースパックのストレージスペース単価は従量課金単価より低いため、全体のストレージリソースコストが削減され、ストレージリソースパックの利用がよりお得です。仕様タイプ（基本版、汎用版、エンタープライズ版）ごとにストレージリソースパック単価が異なりますので、実際に必要なストレージ容量に基づいて適切な仕様タイプを選択できます。

説明事項

ストレージリソースパックは累積した実際のストレージ使用量を時間単位で充当し、従量課金モードに比べてより経済的で柔軟にご利用いただけます。Serverless 版クラスタで充当を行うには、事前にリソースパックのバインドが必要です。リソースパックのアンバインド、有効期限切れ、または使用量枯渇後もクラスタは破棄されず、従量課金方式に切り替わって課金が継続されます。加えて、以下の点にご注意ください:

- ストレージリソースパックは「中国本土共通」と「香港・マカオ・台湾および海外共通」の2種類に分かれます。各タイプで規定されたリージョン内のすべてのServerless版クラスタで共有利用されます。つまり、1つのストレージリソースパックを複数のServerless版クラスタで共用できます。
- 1つのServerless版クラスタには最大10個のストレージリソースパックをバインドできます。複数のストレージリソースパックについて [消費優先順位の調整が可能です](#)。クラスタは優先度レベル（数字）が小さい順にリソースを消費します。
- ストレージリソースパックは時間単位の消費量を累積して充当します。
- 購入済みのストレージリソースパックのダウングレードはサポートされていません。

管理

- [リソースパックのバインドまたはアンバインド](#)
- [リソースパックの使用量の詳細を表示する](#)
- [リソースパック名を変更する](#)

返金

有効期間内に使い切れなかったリソースパックについては、各Tencent Cloudアカウント（ルートアカウント）が自然年ごとに計算し、年間最大20回のリソースパック返金が可能です。有効期限切れまたは使用済みのリソースパックは、現在返金をサポートしていません。詳細な返金説明については、[リソースパック返金説明](#)をご参照ください。

📌 説明:

返金回数の制限について、システムは自然年ごとに計算します。最初の自然年サイクルは2023年6月30日 23:59:59～2024年7月1日00:00:00となり、毎年7月1日00:00:00に回数のリセットされます。したがって、2番目の自然年サイクルは2024年7月1日00:00:00～2025年6月30日23:59:59となり、以降も同様に続きます。

関連ドキュメント

- [ストレージリソースパック](#)
- [リソースパッケージの購入](#)

関連するAPI

API	説明
-----	----

新規リソースパック 購入

本インターフェース（CreateResourcePackage）は新規リソースパック購入のために使用されます。

リソースパックの関連付けまたは関連付け解除

最終更新日: 2026-01-29 17:47:35

リソースパックを使用する場合、リソースパックを購入した後、バインドする必要があります。既にリソースパックがバインドされているクラスタも、リソースパックのアンバインドをサポートしています。本記事では、リソースパックのバインドまたはアンバインドについてご紹介します。

📌 説明:

- 1つのリソースパックは複数のクラスタへのバインドをサポートします。
- 1つのクラスタは最大で10個の計算リソースパックと10個のストレージリソースパックをバインド可能です。
- Serverlessのインスタンス形態を持つクラスタのみがストレージリソースパックのバインドをサポートします。
- コンピューティングリソースパックをバインドできるクラスタは、インスタンス形態がServerlessであるか、またはインスタンス形態がプロビジョニング済みリソースであり、かつServerlessが有効化されているか、つまり、そのクラスタにはServerless読み取り専用インスタンスが存在します。

前提条件

既に [リソースパックを購入しました](#)。

リソースパックをバインドする

シナリオ1: Serverless版クラスタ作成時のリソースパックバインド

1. ログイン [購入ページ](#)。
2. インスタンス形態をServerlessに選択し、[インスタンスタイプ選択](#)と[ストレージ設定](#)でリソースパックを選択・バインドします。完全な作成手順については[Serverless版クラスタの作成](#)を参照してください。

シナリオ2: 既存クラスタへのリソースパックバインド

リソースパックリストから既存クラスタをバインドします。

リソースパックを購入した後、リソースパックリストでターゲットリソースパックを既存クラスタにバインドすることをサポートします。

1. [TDSQL-C for MySQLコンソール](#)にログインします。
2. 左側のナビゲーションバーでリソースパックを選択し、[リソースパック管理ページ](#)に移動します。

3. 下で直接ターゲットリソースパックを見つけるか、または右側の検索バーで素早くフィルタリングして、その操作列のバインド/アンバインドをクリックします。

Resource Pack ID/Name	Type	Status	Used/Total	Bind Cluster	Region	Validity Period	Expiration Time	Operation
package-id package-id	Compute Resource P...	Valid	0/40	-	Outside the Chinese Main...	2025-11-18 17:23:45	2026-05-17 17:23:45	Bind/Unbind Usage Details More

4. ダイアログでリージョンを選択し、リソースパックのバインド先クラスタを選択します（複数選択可）。確定をクリックします。

Bind/Unbind

Cluster ID list: Beijing 3 Other regions 11

Separate keywords with "|"; press Enter to separate

Cluster ID/Name

ID: cynosdbmysql-5htoi
cynosdbmysql-5htoi

ID: cynosdbmysql-5htoi
cynosdbmysql-5htoi

ID: cynosdbmysql-5htoi
cynosdbmysql-5htoi

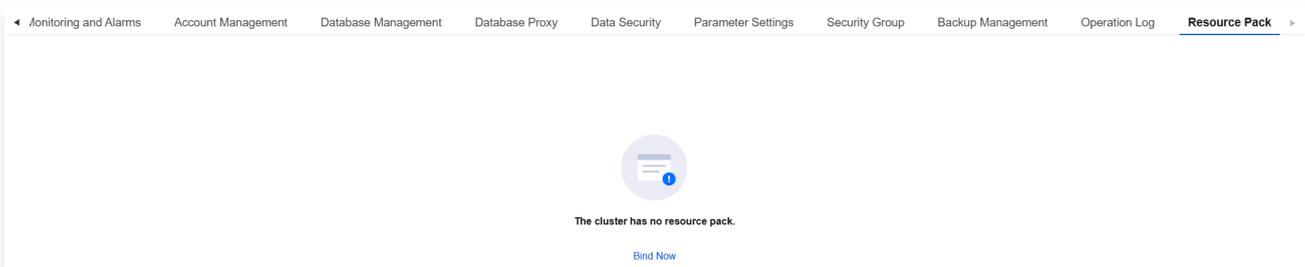
Clusters bound (0 in total)

Cluster ID/Name

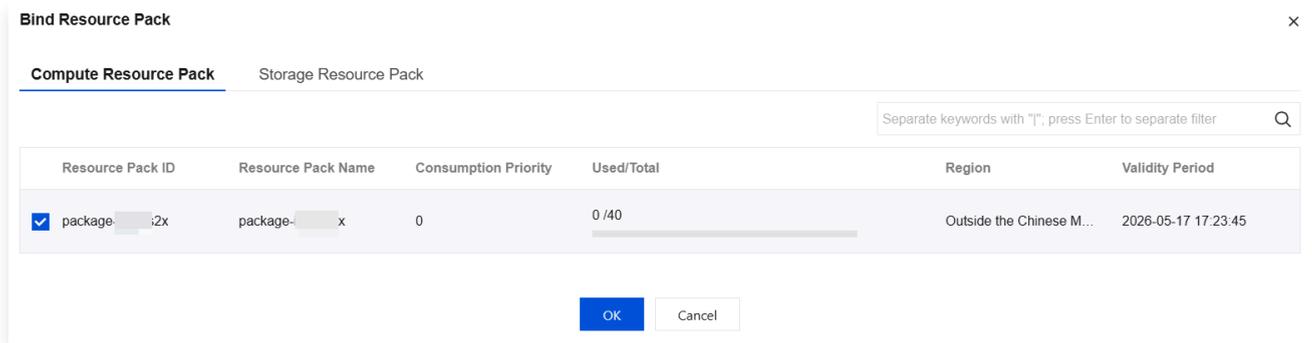
OK Cancel

既存クラスタ管理ページからリソースパックをバインドします。

1. TDSQL-C for MySQLコンソールにログインします。
2. 左側のクラスタリストでターゲットクラスタをクリックすると、クラスタ管理ページに移動します。
3. クラスタ管理ページでリソースパックを選択し、すぐにバインドをクリックします。



4. ダイアログで必要なリソースパックを選択し（複数選択可）、確定をクリックします。



リソースパックのアンバインドをします。

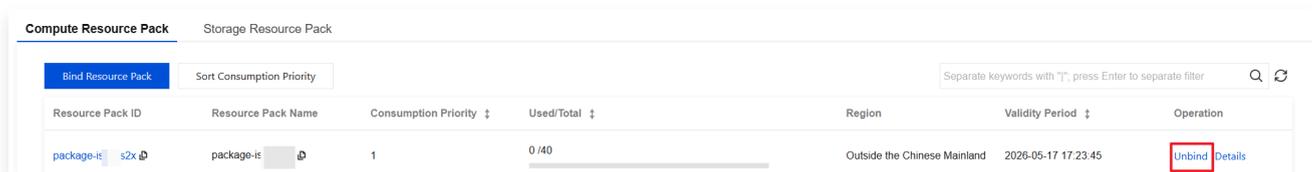
リソースパックの期限切れやリソースの使い切り時には、当該リソースパックは自動的にアンバインドされます。そのほか、手動でのアンバインドも可能です。

リソースパックリストから既存クラスタをアンバインドする

1. [TDSQL-C for MySQLコンソール](#) にログインします。
2. 左側のナビゲーションバーでリソースパックを選択し、**リソースパック管理ページ**に移動します。
3. 下で直接クラスタにバインド済みのターゲットリソースパックを見つけるか、または右側の検索バーで素早くフィルタリングして、その操作列の**バインド/アンバインド**をクリックします。
4. ダイアログでリージョンを選択し、右側でバインド済みクラスタを削除し、**確定**をクリックします。

クラスタ管理ページから既存クラスタのリソースパックをアンバインドします。

1. [TDSQL-C for MySQLコンソール](#) にログインします。
2. 左側のクラスタリストでターゲットクラスタをクリックすると、**クラスタ管理ページ**に移動します。
3. クラスタ管理ページでリソースパックを選択します。
4. 下でアンバインドが必要なリソースパックを見つけ、その操作列の**アンバインド**をクリックします。



5. ダイアログで**確定**をクリックします。

関連するAPI

API	説明
クラスタへリソースパックをバインドする	本インターフェース (BindClusterResourcePackages) はクラスタへリソースパックをバインドするために使用されます。

<p>クラスタからリソースパックをアンバインドする</p>	<p>本インターフェース (UnbindClusterResourcePackages) はリソースパックとクラスタ間のバインド関係を解除するために使用されます。</p>
<p>クラスタとリソースパック間のバインド関係を変更する</p>	<p>本インターフェース (ModifyResourcePackageClusters) はリソースパックとクラスタ間のバインド関係を変更するために使用されます。</p>

消費優先順位の調整

最終更新日: 2026-01-29 17:47:35

1つのServerlessクラスタは、複数のリソースパックのバインドをサポートします。複数の同タイプのリソースパック（コンピューティングまたはストレージ）をバインドする場合、システムはバインド順序に基づいてリソースパックの消費順序を自動的に設定します。また、ユーザーは手動でこの順序を調整することもできます。つまり、リソースパックの消費優先順位を調整することです。消費ルールは、優先レベル（1-10）が小さい順に消費されることです。

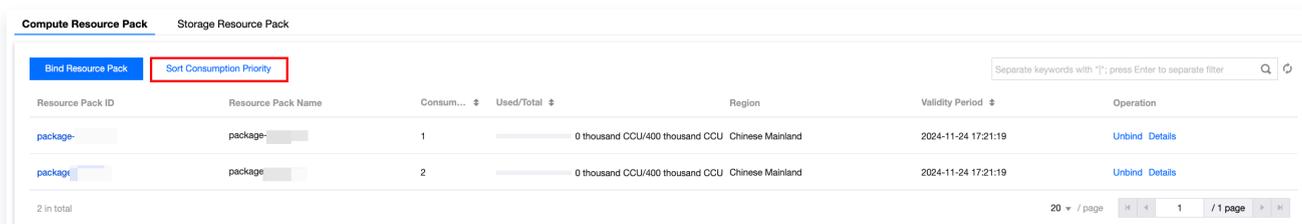
本記事では、コンソールを通じてリソースパックの消費優先順位を調整する方法をご紹介します。

前提条件

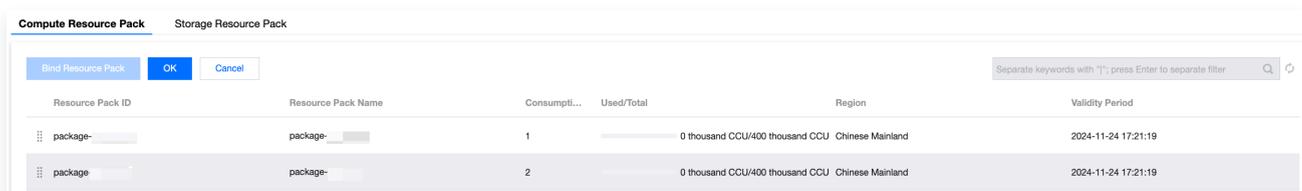
- 既に [Serverless版クラスタを作成しました](#)。
- 既に [リソースパックを購入しました](#)。
- 既に [複数のリソースパックをバインドしました](#)。

消費優先順位の調整

- [TDSQL-C for MySQLコンソール](#) にログインします。
- 左側のクラスタリストで、ターゲットクラスタをクリックすると、[クラスタ管理ページ](#) に移動します。
- クラスタ管理ページでリソースパックを選択し、実際の状況に応じてコンピューティングリソースパックまたはストレージリソースパックを選択してから、[消費優先順位の並べ替え](#) をクリックします。



- マウスドラッグで必要な消費優先順位を調整し、[確定](#) をクリックします。



関連するAPI

API	説明
バインド済みリソースパックの充当優先	本インターフェース（ModifyResourcePackagesDeductionPriority）はバインド済みリソースパックの充当優先順位を変更するために使用されます。

度の変更

リソースパックの使用量の詳細を表示する

最終更新日: 2026-01-29 17:47:36

本記事では、リソースパックの使用状況を確認する方法をご紹介します。

前提条件

- 既にリソースパックを購入しました。
- 既にリソースパックをバインドしました。

操作手順

方法1:

1. [TDSQL-C for MySQLコンソール](#)にログインします。
2. 左側ナビゲーションバーでリソースパックを選択し、[リソースパック管理](#)ページに入ります。
3. 下方で直接対象リソースパックを見つけるか、または右側の検索バーでクイックフィルタリングして対象リソースパックを抽出し、その操作列の[使用量詳細](#)をクリックします。
4. [使用量詳細](#)ページに入ると、右上隅で確認したい対象クラスタを選択するか、すべてのクラスタを選択してリソースパックの使用状況を確認できます。

ⓘ 説明:

- 直近24時間、直近48時間、直近7日間、直近30日間、全期間、またはカスタム期間のリソースパック使用量詳細を確認が可能です。
- 使用量詳細で確認可能なフィールドは以下の通りです: 控除周期 (時間)、リソースパックID、使用量 (使用済み/総量)、クラスタID。

方法2:

1. [TDSQL-C for MySQLコンソール](#)にログインします。
2. 左側のクラスタリストでターゲットクラスタをクリックすると、[クラスタ管理](#)ページに移動します。
3. クラスタ管理ページでリソースパックを選択します。
4. 下方で使用量詳細を確認したいリソースパックを見つけ、[リソースパックID](#)またはその操作列の[詳細](#)をクリックします。
5. [使用量詳細](#)ページに入ると、右上隅で確認したい対象クラスタを選択するか、すべてのクラスタを選択してリソースパックの使用状況を確認できます。

関連するAPI

API	説明
-----	----

リソースパックの使用状況の詳細をクエリする

本インターフェース (DescribeResourcePackageDetail) はリソースパックの使用状況詳細をクエリするために使用されます。

リソースパックアラームポリシー

最終更新日: 2025-12-30 16:37:32

本文では、リソースパックを使用する際の、リソースパックの使用量と有効期間に関するアラームポリシーについてご紹介します。

リソースパックの使用量に関するアラームポリシーの説明

シナリオ: リソースパックの使用量がまもなく使い切る

- リソースパックの残量が30%、20%、10%になった場合、常にアラーム通知がトリガーされます。
 - アラーム通知チャンネル: [サイト内メッセージ](#)、メール、SMS。
 - 通知内容の参考例:

Tencent CloudデータベースTDSQL-Cユーザー様、こんにちは。

お客様のアカウント（アカウントID: 100028***、ニックネーム: ce***）が購入されたTDSQL-C: cynosdbmysql-***リソースパック（リソースパックID: package-***、リソースパック名: to***-***-1）は28.0000万CCUを消費し、残量12.0000万CCU（30%未満）となっております。リソースパックの切替えまたは[新規リソースパックの購入](#)を推奨いたします。
- リソースパックの残量が枯渇した場合、アラーム通知がトリガーされます。
 - アラーム通知チャンネル: [サイト内メッセージ](#)、メール、SMS。
 - 通知内容の参考例:

Tencent CloudデータベースTDSQL-Cユーザー様、こんにちは。

お客様のアカウント（アカウントID: 100028***、ニックネーム: ce***）が購入されたTDSQL-C: cynosdbmysql-***リソースパック（リソースパックID: package-***、リソースパック名: to***-***-1）の総量40.0000万CCUは、2023-05-31 11:43:43に消費し尽くされました。リソースパックの使用を継続される場合は、お早めに[購入](#)してください。

リソースパックの有効期間に関するアラームポリシーの説明

シーン: リソースパックの有効期限が切れそう

- リソースパックの有効期限が期限切れまで30日、7日、5日、3日、1日となった場合、常に期限切れ間近のアラーム通知がトリガーされます。
 - アラーム通知チャンネル: [サイト内メッセージ](#)、メール、SMS。
 - 通知内容の参考例:

Tencent CloudデータベースTDSQL-Cユーザー様、こんにちは。

お客様のアカウント（アカウントID: 100028***、ニックネーム: ce***）が購入されたTDSQL-C: cynosdbmysql-***リソースパック（リソースパックID: package-***、リソースパック名: to***-

***-1) は2023-11-31 11:43:43に期限切れとなります。お早めにご利用ください。期限切れ後のリソースパックはご返金できませんのでご注意ください。[新規リソースパックの購入](#)。

- リソースパックの期限切れ時にアラーム通知をトリガーします。
 - アラーム通知チャンネル: [サイト内メッセージ](#)、メール、SMS。
 - 通知内容の参考例:

Tencent CloudデータベースTDSQL-Cユーザー様、こんにちは。

お客様のアカウント（アカウントID: 100028***、ニックネーム: ce***）が購入されたTDSQL-C: cynosdbmysql-***リソースパック（リソースパックID: package-***、リソースパック名: to***-***-1) は2023-11-10 11:43:43に期限切れとなりました。リソースパックの使用を継続される場合は、お早めに [購入](#) してください。

リソースパック名の変更

最終更新日: 2026-01-29 17:47:36

本ドキュメントでは、リソースパックの名称変更方法をご紹介します。

前提条件

既に [リソースパックを購入しました](#)。

操作手順

- [TDSQL-C for MySQLコンソール](#) にログインします。
- 左側ナビゲーションバーでリソースパックを選択し、[リソースパック管理](#) ページに入ります。
- 下方に直接対象のリソースパックを見つけるか、または右側の検索バーで素早く対象のリソースパックをフィルタリングし、リソースパックのID/名称の下にある編集アイコンをクリックします。
- リソースパック名称変更ポップアップで、変更するリソースパックの名称を入力し、[確定](#) をクリックします。

ⓘ 説明:

リソースパック名称は、長さが60未満の中国語、英語、数字、-、_、.をサポートします。

関連するAPI

API	説明
リソースパック名称の変更	本インターフェース (ModifyResourcePackageName) はリソースパック名称の変更に使用されます。

リソースパックの返金説明

最終更新日: 2026-01-29 17:47:36

本稿では、リソースパックの返金に関する説明をご紹介します。

前提条件

既に [リソースパックを購入しました](#)。

リソースパックの返金規則

コンソールを通じて、有効期間内のリソースパックのセルフサービス返金が可能です。

返金ルール: 有効期間内に未使用のリソースパックについて、各Tencent Cloudアカウント（マスターアカウント）は暦年単位で年間最大20回まで返金が可能です。期限切れまたは使用済みのリソースパックについては、現在返金をサポートしておりません。

❗ 説明:

返金回数の制限について、システムは自然年ごとに計算します。最初の自然年サイクルは2023年6月30日 23:59:59～2024年7月1日00:00:00となり、毎年7月1日00:00:00に回数のリセットされます。したがって、2番目の自然年サイクルは2024年7月1日00:00:00～2025年6月30日23:59:59となり、以降も同様続きます。

返金金額

返金金額 = 支払金額 - (消費済み使用量 × 単価 × 適用割引)。

操作手順

- [TDSQL-C for MySQLコンソール](#) にログインします。
- 左側のナビゲーションバーでリソースパックを選択し、リソースパック管理ページに移動します。
- 下で直接ターゲットリソースパックを見つけるか、または右側の検索バーで素早くフィルタリングして、その操作列で **その他** > **返金** をクリックします。
- ダイアログで返金を開始することを確認した後、**確定** をクリックします。

関連するAPI

API	説明
返金リソースパック	本インターフェース (RefundResourcePackage) はリソースパックの返金に使用されます。

マルチAZデプロイ

マルチAZデプロイの概要

最終更新日: : 2025-12-30 16:37:32

TDSQL-C for MySQLクラスタのインスタンス形態がプロビジョンドリソースまたはServerlessである場合、いずれもマルチAZデプロイをサポートします。単一AZデプロイと比較して、マルチAZデプロイの方式はより高い耐障害性を備え、データベースを保護し、データベースインスタンスの障害やアベイラビリティゾーンの停止を防ぎ、データセンターレベルの障害に耐えることができます。マルチAZデプロイはデータベースインスタンスに高可用性とフェイルオーバーサポートを提供します。マルチAZは、単一AZのレベルで、同一リージョンの複数の単一AZを組み合わせた物理的領域です。本ドキュメントでは、インスタンス形態がServerlessであるクラスタのマルチAZデプロイを紹介します。インスタンス形態がプロビジョンドリソースである場合のマルチAZデプロイについては、[マルチAZデプロイの概要](#)を参照してください。

前提条件

- クラスタが配置されているリージョンは、2つ以上のアベイラビリティゾーンを含む必要があります。
- 対象アベイラビリティゾーンは十分なコンピューティングリソースを備えています。
- データベースのバージョン要件:
 - データベースバージョン5.7では、カーネルのマイナーバージョンが2.0.15以上である必要があります。
 - データベースバージョン8.0では、カーネルのマイナーバージョンが3.0.1以上である必要があります。

リージョンとアベイラビリティゾーンをサポートしています。

- 現在この機能はパブリックベータ期間中であり、当面は以下の表に示すリージョンとアベイラビリティゾーンのみをサポートしています。
- 本機能は順次、サポート対象のリージョンとアベイラビリティゾーンを拡大していきます。
- 業務上の必要性がある場合、他のリージョンやアベイラビリティゾーンへのデプロイに関するご要望は [お問い合わせチケット](#) から提出できます。

サポート対象リージョン	プライマリアベイラビリティゾーンをサポートします。	スタンバイアベイラビリティゾーンをサポートしています。
北京	北京第3ゾーン	北京第5ゾーン
	北京第5ゾーン	北京第7ゾーン
	北京第6ゾーン	北京第7ゾーン 北京第8ゾーン

	北京第7ゾーン	北京第5ゾーン
上海	上海第2ゾーン	上海第4ゾーン
	上海第4ゾーン	上海第2ゾーン
	上海第5ゾーン	上海第4ゾーン
広州	広州第3ゾーン	広州第4ゾーン
	広州第4ゾーン	広州第6ゾーン
	広州第6ゾーン	広州第4ゾーン
		広州第7ゾーン
広州第7ゾーン	広州第4ゾーン	
中国香港	香港第2ゾーン	香港第3ゾーン
南京	南京第1ゾーン	現在はマルチAZデプロイをサポートしていません
シンガポール	シンガポール第3ゾーン	シンガポール第4ゾーン
	シンガポール第4ゾーン	シンガポール第3ゾーン
シリコンバレー	シリコンバレー第2ゾーン	シリコンバレー第1ゾーン
バージニア	バージニア第1ゾーン	バージニア第2ゾーン
	バージニア第2ゾーン	バージニア第1ゾーン
東京	東京第1ゾーン	東京第2ゾーン
	東京第2ゾーン	東京第1ゾーン
ジャカルタ	ジャカルタ第2ゾーン	ジャカルタ第1ゾーン
成都	成都第1ゾーン	現在はマルチAZデプロイをサポートしていません
ソウル	ソウル第2ゾーン	現在はマルチAZデプロイをサポートしていません
フランクフルト	フランクフルト第2ゾーン	フランクフルト第1ゾーン
サンパウロ	サンパウロ第1ゾーン	現在はマルチAZデプロイをサポートしていません

バンコク	バンコク第2ゾーン	現在はマルチAZデプロイをサポートしていません
------	-----------	-------------------------

マルチAZデプロイの料金説明

マルチAZデプロイ機能は当面追加料金が不要です。

マルチAZデプロイの関連操作

最終更新日: 2026-01-29 17:47:36

インスタンス形態がServerlessのクラスタにおけるマルチAZ展開の関連操作は、インスタンス形態がプロビジョンドリソースのクラスタと同様です。以下の表を参照してください。

機能項目および操作ガイドのサポート

機能項目	操作ガイド
マルチAZデプロイの設定	クラスタ作成時および作成後にコンソールでマルチAZデプロイを設定することが可能です。操作手順については マルチAZデプロイの設定 を参照してください。
アベイラビリティゾーンの切り替え	マルチAZデプロイを採用しているクラスタに対してフェイルオーバーを実行することが可能です。操作手順については アベイラビリティゾーンの切り替え を参照してください。
アベイラビリティゾーンデプロイの変更	シングルAZからマルチAZへのアップグレード、およびマルチAZからシングルAZへのダウングレードをサポートしています。操作手順については アベイラビリティゾーンデプロイの変更 を参照してください。

関連するAPI

API	説明
マルチAZデプロイを有効化する	本インターフェース (AddClusterSlaveZone) はクラスタでマルチAZデプロイを有効化するために使用されます。
スタンバイアベイラビリティゾーンのクエリ	本インターフェース (DescribeSlaveZones) はクラスタのスタンバイアベイラビリティゾーンをクエリするために使用されます。
スタンバイアベイラビリティゾーンの変更	本インターフェース (ModifyClusterSlaveZone) はクラスタのスタンバイアベイラビリティゾーンを変更するために使用されます。
主スタンバイアベイラビリティゾーンの切り替え	本インターフェース (SwitchClusterZone) はクラスタのマスタースタンバイアベイラビリティゾーンを切り替えるために使用されます。
マルチAZデプロイを無効化する	本インターフェース (RemoveClusterSlaveZone) はクラスタのマルチAZデプロイを無効化するために使用されます。

設定を変更する

サービスの計算能力設定

最終更新日: 2026-03-09 17:46:07

本稿は TDSQL-C for MySQL Serverless サービスのコンピューティングパワー構成仕様を紹介します。

📌 説明:

- 現在のコンピューティングパワー構成リストには一部販売終了した構成が含まれる場合があります。実際の購入ページの情報をご参照ください。
- リージョンによってサポートされるコンピューティング設定が異なります。各地域の対応状況については以下の表でご確認ください。
- 32CCU以上のコンピューティングパワー構成をご購入の場合は、[チケットを提出](#)の上、担当者にご連絡ください。
- 2024年10月12日より、TDSQL-C for MySQLは技術アップグレードにより、各インスタンス仕様に対応する最大ストレージ容量、最大IOPS（最大I/O処理能力）、およびI/O帯域幅を最適化・調整いたします。Serverless関連の調整については、[Serverless対応制限変更情報](#)をご参照ください。
- データセンターのメンテナンスのため、2025年11月21日より広州3および広州4の購入チャンネルを一時的に閉鎖しております。ご不便をおかけしますが、何卒ご了承ください。

Serverlessコンピューティングパワー構成

広州7ゾーン、南京1ゾーン

最小コンピューティング能力設定 (CCU)	最大コンピューティング能力設定 (CCU)	最大ストレージスペース (TB) をサポートします
0.25	0.5	100
0.25	1	100
0.25	2	156
0.25	4	156
0.25	8	156
0.25	16	192

0.25	32	256
0.5	0.5	100
0.5	1	100
0.5	2	156
0.5	4	156
0.5	8	156
0.5	16	192
0.5	32	256
1	1	100
1	2	156
1	4	156
1	8	156
1	16	192
1	32	256
2	2	156
2	4	156
2	8	156
2	16	192
2	32	256
4	4	156
4	8	156
4	16	192
4	32	256
8	8	156
8	16	192

8	32	256
8	64	384
16	16	192
16	32	256
16	64	384
32	32	256
32	64	384
64	64	384

広州6ゾーン、上海2ゾーン、上海4ゾーン、上海5ゾーン、香港2ゾーン、北京3ゾーン、北京5ゾーン、北京

6ゾーン、北京7ゾーン、シリコンバレー2ゾーン、成都1ゾーン、東京1ゾーン、東京2ゾーン

最小コンピューティング能力設定 (CCU)	最大コンピューティング能力設定 (CCU)	最大ストレージスペース (TB) をサポートします
0.25	0.5	100
0.25	1	100
0.25	2	156
0.25	4	156
0.25	8	156
0.25	16	192
0.25	32	256
0.5	0.5	100
0.5	1	100
0.5	2	156
0.5	4	156
0.5	8	156

0.5	16	192
0.5	32	256
1	1	100
1	2	156
1	4	156
1	8	156
1	16	192
1	32	256
2	2	156
2	4	156
2	8	156
2	16	192
2	32	256
4	4	156
4	8	156
4	16	192
4	32	256
8	8	156
8	16	192
8	32	256
16	16	192
16	32	256
32	32	256

ソウル2ゾーン、シンガポール3ゾーン、シンガポール4ゾーン、サンパウロ1ゾーン、バンコク2ゾーン

最小コンピューティング能力設定 (CCU)	最大コンピューティング能力設定 (CCU)	最大ストレージスペース (TB) をサポートします
0.25	0.5	100
0.25	1	100
0.25	2	156
0.25	4	156
0.25	8	156
0.25	16	192
0.25	32	256
0.5	0.5	100
0.5	1	100
0.5	2	156
0.5	4	156
0.5	8	156
0.5	16	192
0.5	32	256
1	1	100
1	2	156
1	4	156
1	8	156
1	16	192
1	32	256
2	2	156

2	4	156
2	8	156
2	16	192
2	32	256
4	4	156
4	8	156
4	16	192
4	32	256
8	8	156
8	16	192
8	32	256
16	16	192
16	32	256
32	32	256

バージニア1ゾーン、バージニア2ゾーン

最小コンピューティング能力設定 (CCU)	最大コンピューティング能力設定 (CCU)	最大ストレージスペース (TB) をサポートします
0.25	0.5	100
0.25	1	100
0.25	2	156
0.25	4	156
0.25	8	156
0.25	16	192

0.25	32	256
0.5	0.5	100
0.5	1	100
0.5	2	156
0.5	4	156
0.5	8	156
0.5	16	192
0.5	32	256
1	1	100
1	2	156
1	4	156
1	8	156
1	16	192
1	32	256
2	2	156
2	4	156
2	8	156
2	16	192
2	32	256
4	4	156
4	8	156
4	16	192
4	32	256
8	8	156
8	16	192

8	32	256
16	16	192
16	32	256
32	32	256

ジャカルタ2ゾーン、フランクフルト2ゾーン

最小コンピューティング能力設定 (CCU)	最大コンピューティング能力設定 (CCU)	最大ストレージスペース (TB) をサポートします
0.25	0.5	100
0.25	1	100
0.25	2	156
0.25	4	156
0.25	8	156
0.25	16	192
0.25	32	256
0.5	0.5	100
0.5	1	100
0.5	2	156
0.5	4	156
0.5	8	156
0.5	16	192
0.5	32	256
1	1	100
1	2	156

1	4	156
1	8	156
1	16	192
1	32	256
2	2	156
2	4	156
2	8	156
2	16	192
2	32	256
4	4	156
4	8	156
4	16	192
4	32	256
8	8	156
8	16	192
8	32	256
16	16	192
16	32	256

Serverless対応制限変更情報

一、最大ストレージ容量

最大コンピューティング能力設定 (CCU)	最大ストレージ容量 (TB)	
	調整・最適化前	調整・最適化後
0.5	1	100
1	1	100

2	5	156
4	10	156
8	10	156
16	20	192
32	30	256
64	40	384

2. 最大 IOPS

最大コンピューティング能力設定 (CCU)	最大 IOPS	
	調整・最適化前	調整・最適化後
0.5	24000	24000
1	24000	24000
2	24000	24000
4	96000	96000
8	216000	320000
16	384000	400000
32	576000	600000
64	720000	720000

三、I/O 帯域幅

最大コンピューティング能力設定 (CCU)	I/O 帯域	
	調整・最適化前	調整・最適化後
0.5	3 Gbps	3 Gbps
1	3 Gbps	3 Gbps
2	3 Gbps	3 Gbps
4	12 Gbps	12 Gbps

8	27 Gbps	40 Gbps
16	48 Gbps	50 Gbps
32	72 Gbps	75 Gbps
64	90 Gbps	90 Gbps

関連する API

API	説明
Serverlessインスタンスの選択可能仕様のクエリ	本インターフェース (DescribeServerlessInstanceSpecs) はサーバーレスインスタンスの選択可能仕様をクエリするために使用されます。

設定の調整

最終更新日: 2026-01-29 17:47:37

インスタンス形態をServerlessに設定したクラスタを作成後、コンソールのServerless設定でクラスタのアーキテクチャ変更、コンピューティング能力設定の調整、および自動一時停止のオン/オフを変更できます。

前提条件

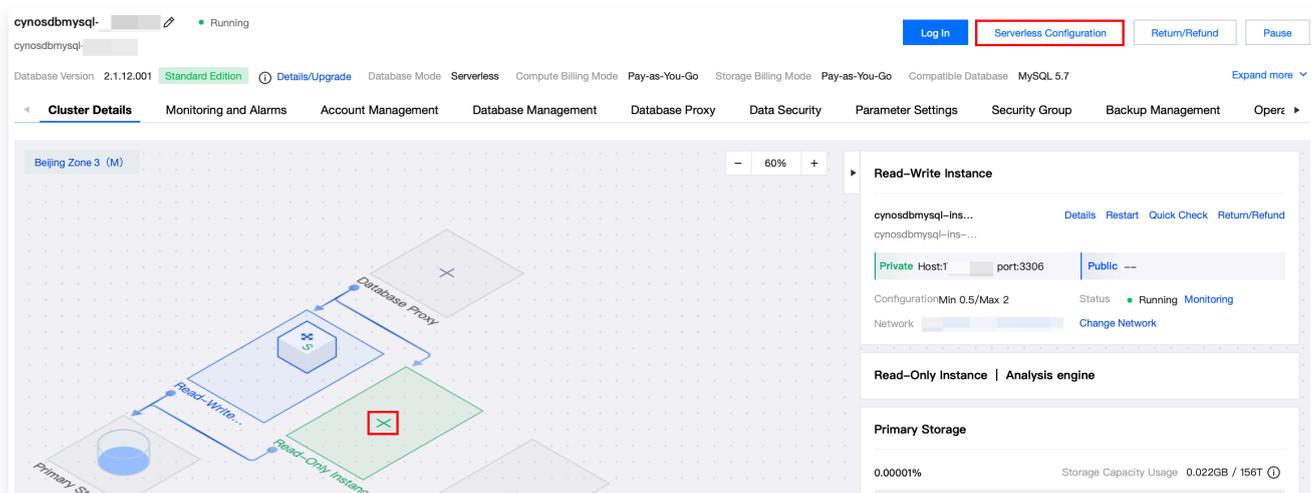
- 既に [Serverless版クラスタを作成しました](#)。
- クラスタの状態は起動です。

クラスタのアーキテクチャを変更する

インスタンス形態がServerlessのクラスタでは、単一ノード版とクラスタ版の2種類のアーキテクチャをサポートしています。単一ノード版は読み書きインスタンスが1つのみで、購入後はコンソールのServerless設定でクラスタ版アーキテクチャに切り替え可能です。クラスタ版は読み書きインスタンス1つと読み取り専用インスタンス1~15個（オプション）で構成され、購入後はコンソールのServerless設定で単一ノード版アーキテクチャに切り替えられます。対応する操作は以下の通りです。

シングルノード版からクラスタ版アーキテクチャへの切り替え

- [TDSQL-C for MySQLコンソール](#) にログインし、画面上部でリージョンを選択します。
- 左側のクラスタリストでターゲットクラスタをクリックすると、クラスタ管理ページに移動します。
- トポロジ図の読み取り専用インスタンス領域で「+」アイコンをクリックするか、右上のServerless設定をクリックします。



- ポップアップで、Serverlessアーキテクチャをクラスタ版として選択します。
- 必要に応じて読み取り専用ノードの数量を選択します。
- 読み取り専用ノードのコンピューティング能力範囲を設定します。この範囲はすべての読み取り専用ノードに適用されます。

7. **確定**をクリックします。

クラスタ版から単一ノード版アーキテクチャへの切り替え

1. [TDSQL-C for MySQLコンソール](#)にログインし、画面上部でリージョンを選択します。
2. 左側のクラスタリストで**ターゲットクラスタ**をクリックすると、クラスタ管理ページに移動します。
3. トポロジ図の読み取り専用インスタンス領域で「+」アイコンをクリックするか、右上の**Serverless設定**をクリックします。
4. ポップアップで、Serverlessアーキテクチャを**単一ノード版**として選択し、**確定**をクリックします。

クラスタのコンピューティング設定を変更する

1. [TDSQL-C for MySQLコンソール](#)にログインし、画面上部でリージョンを選択します。
2. 左側のクラスタリストで**ターゲットクラスタ**をクリックすると、クラスタ管理ページに移動します。
3. トポロジ図の読み取り専用インスタンス領域で「+」アイコンをクリックするか、右上の**Serverless設定**をクリックします。
4. ポップアップウィンドウで、読み書きノードと読み取り専用ノード（クラスタ版アーキテクチャのみ）のコンピューティング能力の設定を調整し、その後**確定**をクリックします。

自動一時停止の有効化/無効化

Serverless設定ページでは、自動一時停止を有効または無効にすることができます。クラスタの自動一時停止のサービス特性および操作方法については、[自動起動停止](#)をご参照ください。

関連するAPI

API	説明
Serverless ポリシーの変更	本インターフェース（ModifyServerlessStrategy）はServerlessのポリシーを変更するために用いられます。

よくあるご質問

Serverless よくある質問

最終更新日: 2025-12-30 16:27:28

本稿では、Serverlessに関するよくある質問をご紹介します。

Serverlessサービスとは

TDSQL-C for MySQLは2種類のデータベースインスタンス形態をサポートしています。1つはプリセットリソース、もう1つはServerlessです。ServerlessサービスはTDSQL-C for MySQLのサーバーレスアーキテクチャ版であり、実際のコンピューティングおよびストレージリソース使用量に基づいた従量課金方式を採用し、業務負荷に応じて自動的にスケーリングされます。これによりリソースの最大化利用とコストの最適化制御を実現します。開発・テスト環境などのデータベース利用頻度が低いケースや、業務負荷の変動が大きいシナリオに適しています。

サーバーレスサービスの課金方法

Serverlessサービスのコンピューティングとストレージは別々に課金されます: コンピューティングはCCU数に基づいて課金され、ストレージは使用量 (GB) に基づいて課金されます。課金システムは秒単位で課金し、時間単位で決済します。その課金の計算式は以下のとおりです:

$$\text{Serverless総費用} = \text{コンピュートノード費用} + \text{ストレージスペース費用} = \text{Serverlessコンピューティングパワー単価} \times \text{CCU量} + \text{ストレージスペース単価} \times \text{ストレージスペース}$$

具体的なコンピューティングパワー価格とストレージスペース価格については、[サービス課金説明](#)をご参照ください。

CCUとは何か

CCU (TDSQL-C Compute Unit) はServerlessのコンピューティング課金単位であり、1つのCCUはおおよそ1つのCPUと2GBのメモリに相当するコンピューティングリソースです。各課金サイクルにおけるCCU使用量は、データベースが使用するCPUコア数とメモリサイズの1/2のうち、最大値が採用されます。

Serverlessサービスは以下のサービス特性を備えています。

Serverlessサービスは以下のサービス特性を備えています:

- 調整可能なCCUのエラスティックスケーリング範囲。Serverlessクラスタはこの範囲内で実際の業務負荷に応じてCCUを自動的に増減し、変動する業務のコンピューティングニーズにより適応します。
- ServerlessサービスはユーザーのCPU、メモリなどのワークロード負荷状況を継続的に監視し、一定のルールに基づいて自動スケーリングポリシーをトリガーします。
- Serverlessサービスはインスタンスの自動一時停止時間をカスタマイズ可能です。接続がない場合、インスタンスは自動的に一時停止します。タスク接続が発生した場合、インスタンスは秒単位で中断なく自動的に再開します。

- カーネルチームによる最適化により、Serverlessサービスは弾力性ジッタ防止機能を備え、クラスタのエラスティックスケールリングをより安定して行えるようになりました。

Serverlessクラスタを作成する方法

購入ページから作成可能で、インスタンス形態をServerlessに選択します。詳細は [Serverless版クラスタの作成](#) を参照してください。

Serverlessクラスタが作成可能なリージョンについて。

現在、Serverlessは広州、上海、北京、成都、南京、香港（中国）、シリコンバレー、バージニア、シンガポール、東京、ソウルのリージョンのみサポートしています。上記のリージョンが要件を満たさない場合は、[チケット](#)を提出してフィードバックをお願いします。

Serverlessクラスタが対応しているデータベースバージョンは以下の通りです。

プロビジョニングリソースクラスタと同様に、MySQL 5.7およびMySQL 8.0をサポートしています。

Serverlessクラスタはどのようなアーキテクチャをサポートしていますか。

シングルノード版またはクラスタ版アーキテクチャの選択がサポートされています。

- シングルノード版アーキテクチャ：クラスタには読み書きインスタンスが1つのみ存在し、購入後はコンソールでクラスタ版アーキテクチャへの切り替えが可能です。
- クラスタ版アーキテクチャ：クラスタには1つの読み書きインスタンスと1~15個の読み取り専用インスタンス（オプション）が含まれます。購入後、コンソールでシングルノードアーキテクチャへの切り替えが可能です。

Serverlessクラスタのコンピューティングパワーのエラスティック範囲はどのくらいですか。

単一Serverlessインスタンスの最小コンピューティングパワー構成は0.25 CCU、最大コンピューティングパワー構成は64 CCUまで設定可能です。アベイラビリティゾーンによってサポートリソースが異なるため、具体的なコンピューティングパワーのエラスティック範囲については [サービスコンピューティングパワー構成](#) をご参照ください。

📌 説明：

初めてエラスティック範囲を設定する際は、最小キャパシティ構成を1 CCUに設定し、最大キャパシティ構成は高い値を選択することをお勧めします。小さいキャパシティ構成は、クラスタが完全にアイドル状態のときに最大限にスケールダウンさせ、追加費用の発生を回避できます。大きいキャパシティ構成は、クラスタの負荷が過大な場合に最大限にスケールアップさせ、業務ピークを安定して乗り切ることができます。

Serverlessクラスタのストレージ上限はいくつですか。

構成したコンピューティング範囲では対応するストレージ上限が異なり、現在サポートされる最大ストレージ上限は384TBです。詳細は[サービスコンピューティングリソース設定](#)を参照してください。

サーバーレスクラスタはプロビジョニングリソースクラスタと比較してどの程度のコスト削減が可能です。

非Serverlessクラスタ（プリセットリソースクラスタ）からServerlessクラスタへの移行でどれだけコスト削減できるかは、[Serverlessコスト見積もりツール](#)で比較できます。

Serverlessクラスタはプリセットリソースの読み取り専用インスタンスのマウントをサポートしているかどうか。

サポートされていません。

プリセットリソースクラスタではServerless読み取り専用インスタンスのマウントが可能です。

サポートされています。Serverless機能を有効にすることで実現可能です。操作および説明については、[プリセットリソースクラスタでのServerlessの有効化または無効化](#)をご参照ください。

Serverlessクラスタは設定調整をサポートしています。

サポートされています。コンソールからServerlessクラスタの構成変更が可能です。詳細は[構成変更](#)をご参照ください。

ServerlessクラスタはマルチAZデプロイをサポートします。

サポートされています。以下の条件を満たすServerlessクラスタはマルチAZデプロイの設定をサポートします：配置リージョンに2つ以上のアベイラビリティゾーンが存在すること、対象AZに十分なコンピューティングリソースがあること、データベースバージョン5.7の場合カーネルマイナーバージョンが2.0.15以上であること、データベースバージョン8.0の場合カーネルマイナーバージョンが3.0.1以上であること。

ServerlessクラスタのマルチAZデプロイでサポート対象のリージョンとアベイラビリティゾーンは以下の通りです。

具体的なサポート状況については[マルチAZデプロイ](#)をご参照ください。ご希望のリージョンやアベイラビリティゾーンがない場合は、[チケットを提出](#)の上、リージョンおよびアベイラビリティゾーンのデプロイ要件についてフィードバックをお願いします。

Serverlessクラスタの返金方法について。

Serverlessクラスタは従量課金（ポストペイド）方式を採用しているため、決済時には実際のリソース使用量に基づいて課金されます。リソースパックを購入していない場合、返金は発生しません。アカウントの未払いを避けるようご注意ください。未払いが発生するとクラスタが隔離・回収され、回収後データは消去されます。詳細は[サービス未払い説明](#)をご参照ください。

単一の読み取り専用インスタンスの手動起動/停止はサポートされていますか。

サポートされています。Serverlessクラスタの自動起動・停止機能の有無にかかわらず、クラスタ配下の個々の読み取り専用インスタンスを手動で起動・停止することが可能です。

リソースパックのよくある質問

最終更新日: 2025-12-30 16:27:28

本ドキュメントでは、リソースパックに関するよくある質問について説明します。

リソースパックとは何ですか？

リソースパックはTDSQL-C for MySQLが提供するプリペイドリソースの種類であり、コンピューティングリソースパックとストレージリソースパックに分けられます。これらはServerless版クラスタで発生するコンピューティングリソースとストレージリソースの費用に充当できます。リソースパックの単価は従量課金よりも割安であり、Serverlessインスタンスでは優先的にリソースパックを購入し、バインドして使用することを推奨します。

インスタンス形態がプロビジョニング済みリソースのクラスタはリソースパックを利用可能でしょうか。

プリセットリソースのクラスタでは、プリセットリソースの読み取り専用インスタンスとServerlessの読み取り専用インスタンスのマウントをサポートしています。このうち、Serverlessの読み取り専用インスタンスのみリソースパックの使用が可能です、インスタンス形態がServerlessであるクラスタはリソースパックの使用をサポートします。

リソースパックにはどのような種類が選択可能ですか。

リソースパックはコンピューティングリソースパックとストレージリソースパックに分類されます。コンピューティングリソースパックはコンピューティングリソース固定枠のリソースパックであり、リソースパックがバインドされたServerlessインスタンスで発生するコンピューティングリソースを優先的に充当するために用いられます。リソースパックの枠が消耗した後、クラスタは従量課金方式で引き続き課金されます。ストレージリソースパックはストレージリソース固定枠のリソースパックであり、リソースパックがバインドされたServerlessインスタンスで発生するストレージリソースを優先的に充当するために用いられます。リソースパックの枠が消耗した後、クラスタは従量課金方式で引き続き課金されます。

リソースパックの最大バインド可能な数はいくつですか

1つのクラスタは最大で同時に10個の計算リソースパックと10個のストレージリソースパックをバインド可能です。

リソースパックのご利用方法

- Serverlessクラスタを購入済みの場合、クラスタ内のコンピューティングおよびストレージリソース費用に充当するために、直接Serverlessリソースパックを購入できます。
- プリセットリソースクラスタを購入済みで、かつServerlessを有効化してServerless読み取り専用インスタンスをマウントしている場合、クラスタ内のServerless読み取り専用インスタンスのコンピューティングリソース費用に充当するために、直接Serverlessコンピューティングリソースパックを購入できます。
- Serverlessクラスタをまだ購入していない場合、以下の3ステップでリソースパックを迅速に利用できます。

- [リソースパックを購入する](#)
- [Serverless版クラスタを作成する](#)
- [リソースパックをバインドする](#)
- 現在のプリセットリソースクラスタでServerlessが有効化されていない場合、以下の3ステップでServerlessコンピューティングリソースパックを迅速に利用できます。
 - [コンピューティングリソースパックを購入する](#)
 - [プリセットリソースクラスタでServerlessを有効化する](#)
 - [リソースパックをバインドする](#)

リソースパックの購入方法

リソースパック購入ページまたはコンソールを通じてリソースパックを購入できます。詳細な操作手順については[リソースパックを購入する](#)をご参照ください。

複数のリソースパックの消費順序は、バインドされた順序に基づく優先度（1-10）が低いものから順に消費され、手動で

複数の同一タイプのリソースパック（コンピューティングまたはストレージ）をバインドする場合、バックエンドはバインド順に基づいてリソースパックの消費順序を自動的に設定します。お客様はこの順序を手動で調整可能であり、つまりリソースパックの消費優先順位のソートを調整できます。消費ルールは優先レベル（1-10）の小さいものから順に適用されます。詳細は[消費優先順位を調整する](#)をご参照ください。

リソースパック購入後、未使用分のリソースは期限切れになりますか？

リソースパックには有効期限があるため、購入時に6ヶ月または1年の有効期間を選択できます。リソースを早期に消費し終えた場合、または有効期限が切れた場合、当該リソースパックは引き続き使用できません。新規リソースパックを購入・バインドする必要があります。リソースパックの消費状況および有効期限については、[リソースパックの使用量詳細を確認する](#)でご確認いただけます。

Serverlessクラスタ購入後、Serverlessリソースパックを購入する必要がありますか。

いいえ、Serverlessクラスタを購入後、課金方式は従量課金となります。必要に応じてServerlessコンピューティングまたはストレージリソースパックの購入を決定できます。購入・バインド後は自動的にServerlessクラスタ内のコンピューティングまたはストレージリソース費用が相殺されます。リソースパックを使い切り、かつ新しいリソースパックをバインドしていない場合、当該Serverlessクラスタは引き続き従量課金で課金されます。

Serverlessリソースパックを購入する前に作成したServerlessクラスタもリソースパックをご利用いただけます。

対応しています。

Serverlessリソースパック購入前に既にServerlessが有効化されているプリセットリソースクラスタは、リソースパックの使用をサポートします。

対応していますが、コンピューティングリソースパックのバインドのみサポートしており、プリセットリソースクラスタ配下のServerless読み取り専用インスタンスのエラスティックコンピューティングリソースを相殺します。

リソースパックのアップグレードはサポートしていますか？

サポートされていません。

リソースパックの継続支払いはサポートされていますか。

サポートされていません。

リソースパックの有効期間の変更はサポートされていますか。

サポートされていません。6ヶ月有効期間と1年有効期間のリソースパックは単価が異なるため、購入後の有効期間変更は現在サポートされていません。

リソースパックの返金方法

- 使い切ったリソースパック、および有効期限が切れたリソースパックは返金に対応していません。
- 有効期間内に使い切れなかったリソースパックについては、コンソールでセルフサービスによる返金が可能です。各Tencent Cloudアカウント（マスターアカウント）は暦年単位で計算され、年間最大20回のリソースパック返金が可能です。返金操作については [リソースパック返金説明](#) をご参照ください。

❗ 説明:

返金回数の制限について、システムは自然年ごとに計算します。最初の自然年サイクルは2023年6月30日23:59:59～2024年7月1日00:00:00となり、毎年7月1日00:00:00に回数のリセットされます。したがって、2番目の自然年サイクルは2024年7月1日00:00:00～2025年6月30日23:59:59となり、以降も同様に続きます。

Serverlessコスト見積ツール

最終更新日: 2025-12-30 16:27:28

TDSQL-C for MySQLは、企業の特定のビジネスシナリオ（開発テスト、変動性の高い業務など）におけるデータベースサービス要件を満たすため、サーバーレスサービスを提供します。さらにサーバーレスコスト見積もり機能をサポートし、サーバーレスサービスの利用コストが予算要件を満たすかどうかをより適切に把握するお手伝いをします。本記事では、サーバーレスコスト見積もりツールの説明と使用方法についてご説明します。

前提条件

- Tencent Cloudアカウントをお持ちの方は、Tencent Cloudアカウントの作成については[Tencent Cloudアカウントの登録](#)をご参照ください。
- Tencent Cloudアカウントの[実名認証を完了する](#)。

使用シナリオ

- Tencent CloudアカウントにTDSQL-C for MySQLの固定仕様インスタンスが既に存在し、既存インスタンスで実行されているビジネスをサーバーレスサービスに移行する必要がある場合、移行前後のコスト比較を把握するために、事前にサーバーレスコスト見積もりツールをご利用いただけます。
- Tencent CloudアカウントにTDSQL-C for MySQLまたはTencentDB for MySQLの固定仕様インスタンスが存在せず、サーバーレスサービスを購入する場合、日常のデータベースインスタンス使用量状況に基づき、サーバーレスコスト見積もりツールを通じて、サーバーレスサービスの利用コストが適切かどうかを把握できます。

注意事項

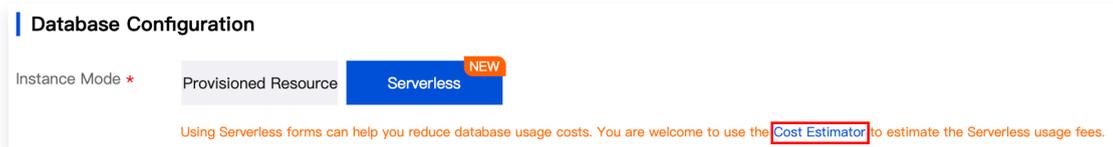
- サーバーレスコスト見積もりツールは、既存の非サーバーレスインスタンスとサーバーレスインスタンスのコスト見積もり比較を現在サポートしています。非サーバーレスのインスタンスタイプで現在サポートされているのは、TDSQL-C for MySQLのインスタンス形態が事前割り当てリソースであるインスタンスです。
- 既存の非サーバーレスインスタンスとサーバーレスインスタンスのコスト見積もり比較を行う場合、既存インスタンスに表示される計算およびストレージのコスト価格の課金モードはソースインスタンスと一致します。つまり、ソースインスタンスの課金モードが年/月単位サブスクリプションの場合、コスト見積もり比較ではソースインスタンスは年/月単位サブスクリプションに基づいて比較され、ソースインスタンスの課金モードが従量課金の場合、コスト見積もり比較ではソースインスタンスは従量課金に基づいて比較されます。
- 新規購入インスタンスとサーバーレスインスタンスのコスト見積もり比較を行う場合、新規購入インスタンスに表示される計算コストの課金モードは年/月単位サブスクリプションとなり、ストレージコストの課金モードは従量課金となります。

コスト見積もりツールを使用する

! 説明:

- システム評価結果は、評価期間内の監視データに基づき、1か月分のトラフィック負荷をシミュレートして評価したものです。そのため、実際の使用コストとは多少の差異が生じる可能性があります。この見積もりは参考までです。実際の使用コストについては、請求書に準じてください。
- 毎月の計算リソース消費量：過去の監視データに基づき、1か月周期における計算リソース消費量を見積もり、リソースパック購入の参考とします。
- 毎月のストレージ消費量：過去の監視データに基づき、1か月周期におけるストレージリソース消費量を見積もり、ストレージリソースパック購入の参考とします。
- コスト見積もりツールにおけるすべての価格は定価に基づいて評価されており、アカウント固有の割引、クーポンなどの優遇策は含まれません。

1. ログイン [購入ページ](#)。
2. データベース設定 > インスタンス形態でServerlessを選択してください。
3. ヒントメッセージ内のコスト見積もりツールをクリックしてください。



4. 右側に表示されるサイドバーで、ニーズに応じて以下の手順を完了し、コストに関するシステム評価を取得できます。

Welcome to Use the Serverless Cost Estimator



The Serverless Cost Estimator helps you estimate the cost savings from migrating from non-Serverless to Serverless databases, and recommends suitable resource package purchase methods based on your resource usage.

step1: Select Source

Instance

Comparison of Existing Instances Evaluation of New Instances

Region	Instance ID	Evaluation Time (At Least 1 Day and up to 7 Days)
Beijing	cynosdbmysql-ins (cynosdbmysql-ii)	2024-12-10 ~ 2024-12-11

step2: Evaluation

Results

After migration to Serverless instances, the estimated monthly consumption of computing resources is 648.00 thousand CCU and that of storage resources is 23.04 GB. The cost is compared based on the list price as follows:

Cost Compari...	Source Instance 54.16 USD/month	Serverless (pay-as-you-go) 9.08 USD/month Save 45.08 USD/month	Serverless (Resource Pack) 6.82 USD/month Save 47.34 USD/month
Cost De...			Enterprise Edition ▾ 6 months ▾
Compute	48.00 USD (2 cores/4GB Dedicated/Monthly Subscription)	9.07 USD	6.82 USD
Storage	6.16 USD (Monthly Subscription)	0.02 USD	0.01 USD
Trends	<p>Legend: Source Instance (green), Serverless (pay-as-you-go) (blue), Serverless (Resource Pack) (purple)</p>		

step3: Evaluation

Recommendations

According to the system evaluation, after migrating the source instance to a Serverless instance, you will save **45.08USD** per month. If you purchase a resource package, you will save **47.34USD** per month. It is recommended to purchase Serverless instances or resource packages.

[Purchase Resource Pack](#)

4.1 ソースインスタンスを選択。コスト比較に使用するソースインスタンスを選択します。既存インスタンスまたは新規購入インスタンスを選択して評価を行います。

- 既存インスタンス比較：既存インスタンスを比較する場合、以下のドロップダウンから対象インスタンスのリージョン、インスタンスID、評価期間（1日以上、最大7日）を選択してください。
- 新規購入インスタンス評価：お客様のTencent Cloudアカウントに比較対象となるソースインスタンスがない場合、新規購入インスタンス評価を選択し、リージョン、インスタンス仕様、CPU日平均使用率（最小値は0.01%にのみ設定可能）、メモリ日平均使用量、ストレージ日平均使用量を選択できます。

! 説明:

- 既存インスタンス比較を選択した場合、リージョン、インスタンスID、評価期間を設定すると、システムは自動的に評価を行います。新規購入インスタンス評価を選択した場合、リージョンやインスタンス仕様などの情報を設定後、**評価開始**をクリックしてシステム評価を実行する必要があります。
- 選択した評価期間の各日には完全な24時間の監視データが必要です。したがって、インスタンス購入当日および評価当日は日付を追加しての評価をサポートしていません。

4.2. **評価結果**。このステップで、ソースインスタンス、Serverless（従量課金）、Serverless（リソースパック）という3つの方式のコスト比較を確認できます。

4.3. **評価推奨事項**。このステップでシステム評価の推奨事項を取得できます。システム評価でServerlessインスタンスに移行後、毎月一定のコスト削減が可能と判断された場合は、Serverlessインスタンスとリソースパックを購入し、ビジネスに提供することをお勧めします。システム評価でServerlessインスタンスに移行後、ソースインスタンスと比較してコストが高いと判断された場合は、ソースインスタンスの継続使用、またはインスタンス形態がプリセットリソースのTDSQL-C for MySQLインスタンスの購入をお勧めします。

5. Serverlessコスト見積ツールの使用が完了したら、右上の閉じるアイコンをクリックして購入ページに戻り、引き続き購入設定を完了できます。